2010年物語

かごしま21世紀ビジョン

社団法人鹿児島青年会議所

2010年物語

——かごしま21世紀ビジョン——

C O N T E N T S

◆メッセージ …… 1

◆プロローグ …… 2

第1章　子供にとっての2010年「学ぶ」…… 3

シーン1　未来ちゃんの時間割
シーン2　リバーフロントパーク
シーン3　コミニティログハウス
シーン4　サザンスクールツアー
シーン5　子供ミュージカル
実現に向けて

第2章　若者にとっての2010年「遊ぶ」…… 11

シーン1　スポーツ交流プラザ
シーン2　新交通システム"シティライナー"
シーン3　南の歴史・文化都市
シーン4　与次郎ヶ浜ウォーターフロントの森
シーン5　マリンシティ
シーン6　かごしまコレクション
シーン7　鹿児島フェニーチェVS札幌スノーマジック
シーン8　クリスマスイブ・イン・天文館
実現に向けて

第3章　働きざかりにとっての2010年「働く」…… 23

シーン1　日本COSMOS社
シーン2　サテライトオフィス
シーン3　鹿児島1%クラブ
シーン4　㈱シニアスタッフ
シーン5　MADE IN KAGOSHIMA
実現に向けて

第4章　高齢者にとっての2010年「安らぐ」…… 31

シーン1　吹上リゾートオフィスタウン
シーン2　シルバーベンチャー企業
シーン3　クラフトワークタウン
シーン4　皇徳院ふれあい病院
シーン5　もくれんの並木道
実現に向けて

第5章　外国人にとっての2010年「交わる」…… 39

シーン1　アジアトレードフェア
シーン2　サザンアイランドクルージング
シーン3　おはよう陳さん
シーン4　ミスターリチャード
実現に向けて

◆エピローグ …… 47

◆参考文献 …… 48

■メッセージ

D R E A M S　C O M E　T R U E ・・・・

2010年に
私たちはこんなまちに住んでいたい。

私たちの愛する郷土鹿児島は、錦江湾越しに桜島を眺望し、南北30キロに亘る美しい海岸線を有する風光明媚なまちです。また古くより島津家の城下町として栄え、幕末には明治維新を支えた数多くの偉人を輩出した歴史と風格あふれる都市でもあります。しかしながら目まぐるしく変わる昨今の社会・国際情勢下、特に首都圏への人と財の一極集中化が加速度的に進展する中で、鹿児島は国際化社会への対応も含め、厳しい都市間競争に打ち勝っていかなければならない宿命を背負う一方で、県内においては慢性的な人口減少、特に若年層の県外流出、県民所得の落ち込み、更には災害に弱い社会整備基盤等々、様々な問題を抱えており県都鹿児島としてのリーダーシップもまた同時に問われています。

21世紀を目前に控え私たちは自分たちのみならず、未来を担う子供たちが安心して住むことができ、特別の愛着と誇りを持つことができるような、さらには日本のみならず世界に拡がる国際都市として情報発信できるような、そんな夢のある鹿児島の21世紀ビジョンを構築する必要があります。

それでは「夢のある鹿児島」とはいったいどんなまちなのでしょうか。こう問いかけられた時、実は自分たちがこの「夢」を殆ど描いたことがないことに気が付きます。「こんなところが駄目なんだ」とか「ここをもっとこうすれば良いのに」ということはいくらでも言えるのに、「それではあなたの住みたい鹿児島はどんな鹿児島なのですか」と問われると、途端にイメージが曖昧になってしまいます。

鹿児島が21世紀においても魅力あるまちとして光り輝くためには、様々なまちの良いところばかりを寄せ集めたようなまちではなく、むしろ個性のあるまちを目指すべきであると考えます。そのためには何よりも住んでいる私たちが、しっかりとした夢のある鹿児島のイメージを持っていなくてはなりません。

今、私たちに必要なことは、「こんなまちだったら住んでみたい」、「こんなまちだったら子供たちにも住んでもらいたい」という鹿児島のイメージを具体的に描いて見ることだと思います。

私たちは2010年という近未来にタイムマシンの針を合わせ、21世紀のＫＡＧＯＳＨＩＭＡをシミュレーションしてみました。国際的な都市としての機能と快適性を持ちながら、自然環境に恵まれ、歴史と文化の香りが漂い、しかも家族や隣人、そしておそらくこの時代には人口の25％以上を占めているであろう高齢者が互いに助け合いながら生活できる、そんな豊かな「かごしま」が私たちの理想です。

この夢がかなうのか、それとも幻想で終わるのか、それはまさしく私たちの肩にかかっていると言えるでしょう。何もしなければ何も変わるはずがありません。私たち市民自らが今日から一歩ずつでもこの夢の実現へ向けて進んで行かなくてはならないと思います。

足取りは牛歩の如く重いものかも知れません。でも必ずいつの日かこの夢が正夢になることを私たちは信じています。



社団法人鹿児島青年会議所
第40代理事長　津曲貞利

PROLOGUE
プロローグ

「1994年…今」

朝、目が覚めて家の窓越しに、桜島から朝日が昇るのを見る時……。湾岸を指宿にまた国分に車を走らせながらキラキラと輝く錦江湾をまぶしく見つめる時……。私たちは誰もがこの鹿児島に生きていることの幸せを感じます。そして、このまちを舞台に心豊かで充実した日々をいつまでも送っていきたいと願っています。

しかし、現実の生活の中では政治の混乱、経済の停滞、教育の荒廃、災害の発生等の不透明・不測な状況に不安を感じていることもまた事実です。

20世紀も残すところ5年余りとなったこの1994年に生きる私たちは、ただ漫然と時の流れに身を任せているのではなく、今起きていることや今後生じてくるであろう課題を考えながら、夢のあるまちの将来像（ビジョン）を思い描き、共通の認識を持って、主体的にできることからひとつずつ実行していくことが求められています。

「21世紀のビジョン」

新しい世紀が訪れるという初めての経験は、心に希望や夢を与えてくれます。この機会に私たちは21世紀の鹿児島をどういうまちにしたいのかを考え、提起しようと思います。

このまちには54万人余の人々がさまざまな価値観を持ち暮らしていますが、21世紀に向けて、まちを豊かな時間と空間を共有できる場所として、また生き生きと自己実現が図れる場所として育くんでいきたいという気持ちは皆同じだと考えます。

その思いが市民のアイデンティティーとして醸成し、まちづくりの中に具現化する年を16年後の2010年に定めました。熱意と工夫と行動する勇気があれば実現に充分な期間だと考えるからです。

「2010年物語」

いつの時代もまちの主役は「人」です。本書では2010年、まちを構成する子供から高齢者・外国人まですべての人々が生き生きと生活しているシーンをストーリーで描いてあります。

第1章では、子供にとっての「学ぶ」をテーマに、次代を担う子供達が、自然に恵まれた環境の中で個性と主体性を育みながらコミュニケーションを大切にする人間として成長する姿を描きます。

第2章では、若者にとっての「遊ぶ」をテーマに、活力のあるまちの原動力となる若者が情報の受発信ができ、選択肢の多いまちで、豊かな自然や歴史の重みを感じながら快適な都市生活を送っている姿を描きます。

第3章では、働きざかりにとっての「働く」をテーマに、経済社会を担う人々が時間的精神的なゆとりを持って、個人を大切にし、社会性、公開性の高い企業で充実した日々を過ごしている姿を描きます。

第4章では、高齢者にとっての「安らぐ」をテーマに、高齢化の進む中で生きがいを提供でき、不安をサポートできるまちとして高齢者にとって心優しいまちになっている姿を描きます。

第5章では、外国人にとっての「交わる」をテーマに、アジアに開かれたまちとして、観光やビジネスでの交流が活発となっている姿、独自の特色を持った大学に多数の留学生が訪れ地域に根差している姿を描きます。

そして各章の後半では現状を紹介しながらシーンの実現に向けた提言・アクションプログラム（行動計画）を明示してあります。

この物語を通してみなさんが自分自身の、家族の、会社の、住まいの、地域の16年後を想像しながらオーバーラップしてご覧いただき、鹿児島のまちの将来を一緒に考えるきっかけとしてもらえれば幸いです。

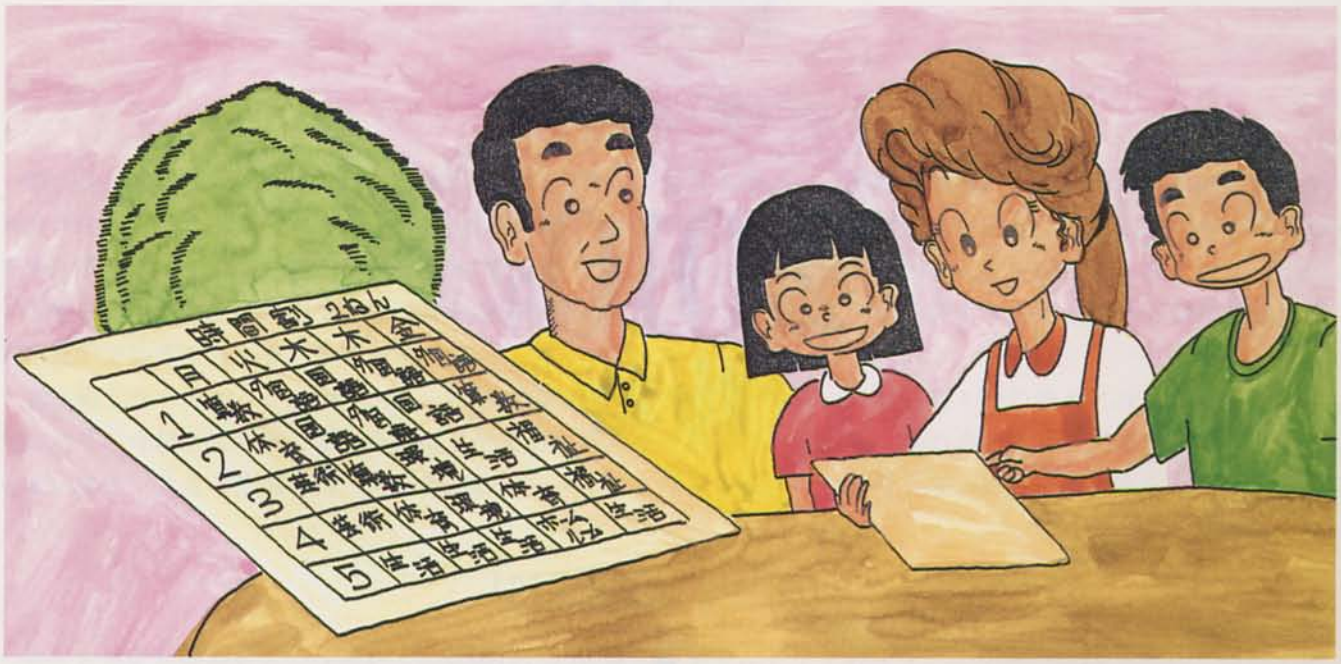
2010年物語

第1章

▶ 子供にとっての2010年 ◀

学ぶ

SCENE 未来ちゃんの時間割 1
シーン1



鹿児島市郊外にある皇徳院ニュータウンに住む未来(みらい)ちゃんは、今年から小学３年生。

夕食後のひととき、４月から始まる新学年の時間割について家族と相談している。様々な科目があるが、未来ちゃんの通う皇徳院小学校の特色は「芸術」「福祉」「環境」の３科目を１年生から勉強し、しかもそれぞれ本来のクラスを離れて異なる学年の子供たちと一緒になって勉強するようになっていること。

３科目の中にはそれぞれに選択コースがあり、「芸術」は習熟度に合わせたクラス編成がなされている。未来ちゃんは、「芸術」の中では音楽コースを１年生の時から選択している。ジャズ大好き人間のお父さんとクラシックの好きなお母さんのもとで育てられてきた未来ちゃん。小さい時から、家のなかにはいつも音楽が流れ、未来ちゃん自身も３歳の時からピアノを習っている。

「お母さん、今年はクラシックピアノコースとジャズピアノコースのどっちを選んだ方がいいかなあ？」

「１年生の時からクラシックコースをとって来たんだから、そのまま続けた方がいいんじゃない？」

「未来はうちでクラシックピアノを貴島先生に習っているんだから、学校ではジャズコースをとった方が気分が変わって楽しいんじゃないか。それにジャズコースの津曲先生はお父さんも良く知ってるけど、ピアノだけじゃなくお話がとってもおもしろいんだ。」

「あら、お父さん。ピアノとお話は関係ないんじゃない。」

とジャズ派のお父さんとクラシック派のお母さんの間でいつものように論争が始まった。

悩んだ末、未来ちゃんはボランティアでピアノを教えている津曲先生のジャズピアノ初級コースを選択することにした。このクラスの中で未来ちゃんは最年少だ。

「福祉」も施設を訪問して福祉サービスを体験するコースや日本や世界の福祉の現状、今後のあり方について先生の話を聞くコースなどいくつかのコースがある。

「お父さん、どれを選ぼうかしら？」

「未来の得意のピアノを目の不自由な方に聞かせてあげたらとても喜ばれると思うよ。」

「そうね。じゃあ、今年は施設を訪問するコースを選ぶわ。」

中学１年生の二十一平君が未来ちゃんの時間割を覗きこんできた。

「環境は、無農薬野菜栽培実習コースが絶対いいよ。お兄ちゃんは、その時作って食べたトマトの味が今でも忘れられないんだから。」

未来ちゃんはみんなの話を聞きながら、とても楽しそうに時間割を作っていった。

SCENE 2 リバーフロントパーク
シーン2

梅雨の合間のある晴れた日。水分をたっぷり含んだ緑が太陽の光に輝く季節。梅雨明け間近を感じさせる。

この日、未来ちゃん、志織ちゃん、健太くんの3家族は、一緒に甲突川上流にあるキャンプ場へ出かけた。近くを流れる甲突川は、※リバーフロントパークとして整備されており、川の中に設けられたプールや水路に設けられた水車など、身近に水に親しめるようになっている。

◇　◇　◇

1993年8・6豪雨により大きな被害をもたらした甲突川も、その後の河川改修、総合治水対策への取組みによって、安全性、快適性を兼ね備えたリバーフロントとして、再び市民にとって親しめる川となっている。

また河川拡幅された後の両岸には、河口付近から数キロにわたって逍遙(しょうよう)プロムナードとしてボードウォークが整備され、また親水施設も設けられるなど憩いの空間となっている。

◇　◇　◇

「志織ちゃん、早くおいでよ。小さな魚がいるよ。」
「健ちゃん、先の方は流れが早いから気をつけなさい！」

キャンプ場に着くと子供たちは川に入り、ささ舟を浮かべたり、小魚を追いかけたり、楽しそうに遊んでいる。健太君のお母さんはニコニコしながらも少し心配そうに見ている。

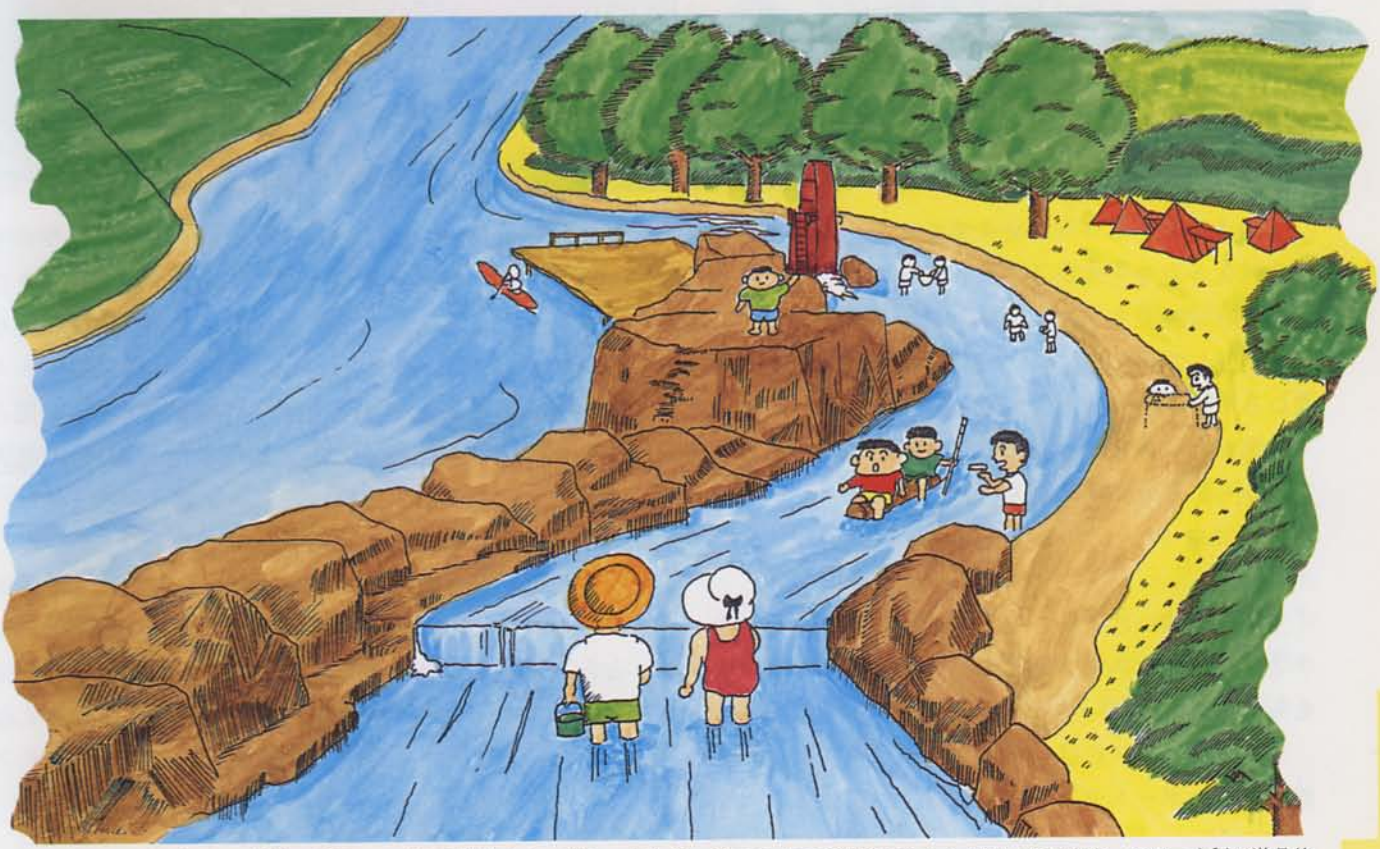
「未来ちゃん、今度は裏山へ行こう！」
「健太くん、待ってよ！」

子供たちは、ひとしきり遊んで飽きると、今度はキャンプ場の裏山にある自然のまま残された雑木林へ出かけていった。この場所は、子供たちにとってワンダーランドとして特に男の子に人気があり、木登り、基地づくり、ネイチャーゲームなど体のあちこちにキズを負いながらも、大きな事故から身を守ることを覚える場所、子供たちが五感を使って遊ぶことのできる場所、子供たちが持つ本来の個性を生き生きと蘇(よみがえ)らせることのできる場所となっている。

都市化が進んだ現在でも、子供たちが心豊かな時を過ごすことのできるリフレッシュ空間として、手を加えられていない自然のままの場所が市内のあちこちに残されている。

「おーい、健太、志織ちゃーん、未来ちゃーん！バーベキューの準備ができたぞー！」

健太くんのお父さんの大きい声が、自然の中でこだました。



※リバーフロントパーク　「川の水辺に、市民が降りたち、憩い、安らぎ、集えるような親水性のある公園。芝や樹木、石畳、木製の遊具等を配置し、自然環境を守りながら、親水性のある空間として形成される。」

SCENE コミュニティログハウス 3
シーン3

かつては校庭の周囲を塀やフェンスで囲まれていた小・中学校。子供たちも卒業すると何となく学校とは疎遠になりがち。しかし、小・中学校は子供たちの教育の場所であるだけでなく、大切な地域の交流の場所、21世紀のまちづくりにとって大きな可能性を秘めている場所でもある。

未来ちゃんの通う皇徳院小学校は、子供たちが社会に深く関わる人に育つよう、そのことを意識したつくりになっており、校舎を除き、自由に出入りできるようになっている。

「未来ちゃん、もうすぐ夏休みだけど、今年はどこに遊びにいくの？」

「去年は甑島に行ったから、今年は奄美か沖縄に連れて行ってとお父さんにお願いしているの。だからもう少し泳げるようになりたいな。おじちゃん、しっかり教えてね！」

体育館、プールなども地域住民の自主的な管理と責任において、放課後や週末は自由に利用できるようになっている。今日も、かつて国体選手として鳴らした三木さんが、未来ちゃんはじめ何人かの子供たちにスイミングを教えながら、自分も楽しんでいる。

また学校の敷地の一角には木の温もりを感じられるコミュニティログハウスが建てられており、家庭教育・学校教育・地域教育の一体化を図る拠点となっている。



その1階にあるサロンで未来ちゃんと志織ちゃんのお母さんが話をしている。

「最近、志織たちが未来ちゃんに刺激されて、福祉施設を訪問して障害者の方々に歌を歌ってあげたいと言っているんだけど、奥さん、どこか心あたりないかしら。」

「未来が行く施設で9月に文化祭をやる予定になっているから、それに申し込んでみたら？実は私、文化祭をここでやったらどうかと思っているんだけど，どうかしら。」

「ちょっと狭いけどいいんじゃない。さっそくボランティア登録している方々の中から何人くらい手伝いをもらえるか、当たってみましょうよ。」

このログハウスには、サロンや小ホールなどがある他、地域サポートセンターが併設されている。センターは、地域住民で構成されるサポーターズクラブの手で運営され、放課後や週末の学校施設の利用に伴う自主管理を行う他、地域内ボランティアの登録、斡旋やボランティアで活躍するお母さんの小さい子供を預かったり、豊富な経験や技能を持つ高齢者の方々が講師となって地域住民を相手に開くカルチャー講座や※老人デイサービスの機能を持つなど、家庭・学校・地域が三位一体となってうまく機能している。

学校は生涯教育の核と言われていた時代から一歩進み、地域住民の世代間交流の場に学校が同居しているといった感じだ。今では学校は地域のシンボルとして在学生だけでなく、卒業生も保護者も住民も気軽に訪れる場所となっている。

※老人デイサービス　「体や精神に障害があるが、寝たきりでない老人を昼間預り、老人の心身機能の維持と家族の負担の軽減を目的に、入浴、食事、日常生活動作、レクリエーション、生活指導等を行うサービス。」

SCENE サザンスクールツアー 4
シーン4



二十一平君たちの通う皇徳院中学校の今年の修学旅行は、夏休みを利用して飛行機で香港まで飛び、香港から鹿児島までは船で帰る１週間の旅となっている。

旅行の目的は、船の中での集団生活を通して自己成長を図ること、地元中学校の生徒と交流を図ること、海を通して発展してきた鹿児島の歴史、文化を学ぶこと、南北600キロに及ぶ鹿児島の個性的な自然を実感することなどである。

二十一平君にとって香港は３回目であるが、船に乗って島々を訪れるのは初めての経験なのでとても楽しみにしていた。

いよいよ出発の日。昨夜から興奮気味でほとんど寝つかれないまま朝を迎えた。

「おはよう、二郎君。夕べはよく眠れた？」

「今日からのことを思うと少し気持ちが高ぶってほとんど眠れなかったよ。」

学校に行くと友達もみんな同じような様子である。空港へ向かうバスの中も大騒ぎ。先生も今日だけは大目に見てくれているようだ。

◇　◇　◇

高層ビル群を間近に見ながら、香港へ到着。一日目の今日は自由行動になっているのでホテルに着くとそれぞれ数人ずつのグループに別れて行動を開始する。二十一平君たちは小学校の頃から授業で外国人の先生に英会話を学んでいるので、日常生活に困らない程度の会話をできる子供たちが多い。二十一平君はさっそく二郎君たちとフェリーに乗って香港島にわたり、二階建電車などで市内観光を楽しむ。

◇　◇　◇

二日目　～　香港の中学校の生徒とスポーツなどを通して交流。また中学校の先生から香港の歴史について学ぶ。

三日目　～　沖縄本島にて地元の古老に第二次世界大戦の話を聞く。先生からは日本の現代史の講義を受け、平和問題について討論を行いながら学ぶ。

四日目　～　奄美大島では地元の中学生との交流。伝統工芸視察。※奄美六調（りくちょう）に参加。美しい奄美の海で海水浴も楽しむ。

五日目　～　世界遺産条約に登録されている屋久島の自然に触れながら、環境問題について学ぶ。

六日目　～　種子島でキリスト教、鉄砲伝来など歴史について学ぶとともに、スペースキャンプを訪れ、宇宙について学ぶ。

七日目　～　鹿児島到着

◇　◇　◇

わずか１週間の旅であったが、二十一平君は様々な地域を訪れて多くの人と交流し、歴史、文化、自然など各面から体験、勉強できたことは本当に有意義であったと感じている。

※奄美六調　「三味線、太鼓、指笛を用いた独特の伴奏に、リズミカルな唄、エネルギッシュな踊りが特徴。また踊りには振付がなく、自由奔放に演舞するため、さまざまな個性が表現され、歓喜の究極の表現舞踊。」

SCENE 子供ミュージカル 5
シーン5

今日、二十一平君たちのクラスはベイエリアにあるミュージックシアターで開かれている鹿児島芸術祭の鑑賞にきた。毎年11月初旬に行われるこの芸術祭は誰でも気軽に出演でき、入場も無料となっている。昨日は二十一平君のおじいちゃんたちのロックバンドも出演し、エネルギッシュな演奏でヤンヤの喝采を浴びていた。今や世界的なビッグバンド“ＣＪＫ”もこの芸術祭の出身だ。また芸術祭の運営は、ウォーターフロントフェスティバル記念財団が行っている。

石づくりでエキゾチックな雰囲気のミュージックシアターのあるエリアは“さつまと海の歴史館”や“かごしま水族館”などがあることから、鹿児島を代表する観光スポットとなっている。

「さつきちゃん、来年の芸術祭に僕たちも参加しようよ。今度のホームルームの時にみんなに話してみよう。」

「二十一平君。それはいいけど、何をするつもりなの。」

「ミュージカルをやってみたいんだ。自分たちの持っているエネルギーを歌と踊りで、めいっぱい表現したいんだ。」

さっそく翌日のホームルームで二十一平君が芸術祭への参加について提案すると、みんな大乗り気。すぐに芸術祭参加は決まった。しかし、ミュージカルをやるとなると、実際どういう段取りで進めていけばいいのか分からない。先生もミュージカルについては、あまり知らないという。

「だったら、地域サポートセンターに相談に行ってみようよ。」

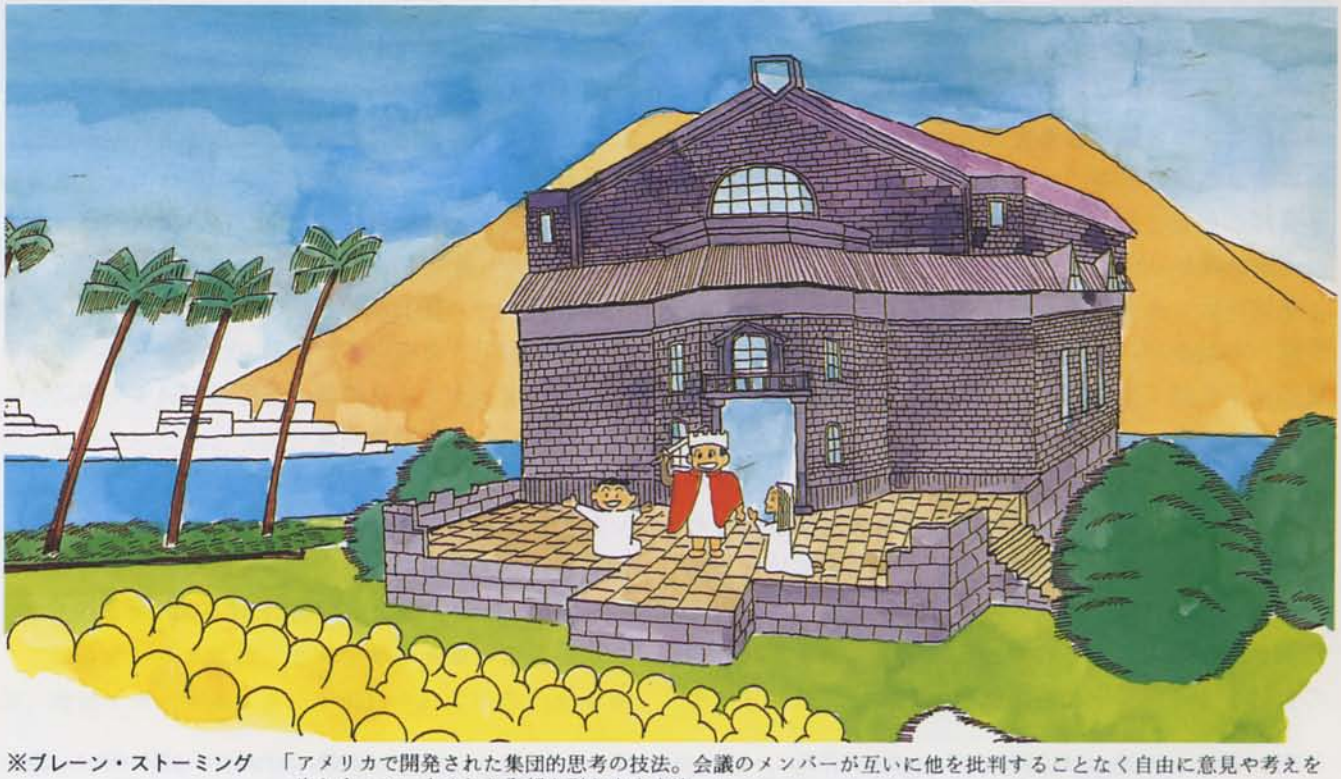
さつきちゃんが提案し、二十一平君たちはホームルームが終わると、学校内にあるセンターのおばさんに相談にいった。

「ミュージカルをしたいの。それは素晴らしいことだわ。それだったら鹿児島青年会議所が、以前、ミュージカルを招いて大成功させたことがあったから、ちょっと聞いてみようか。おばさんの知ってる人もいるし。」

次のホームルームの時、鹿児島青年会議所から安永理事長がやってきた。

「最初に趣旨をしっかりと固めた方がいいよ。みんな今度のミュージカルに何を期待するか。どういう事を成果としたいか。※ブレーン・ストーミングで進めてみよう。」

安永さんのアドバイスを受け、二十一平君たちは必要な作業を拾いだし、一緒に手伝ってくれる友達やボランティアの人々をリストアップし、開催までのスケジュールや内容を検討していった。計画を練るうちに、二十一平君やクラスの仲間は「ミュージカルはきっと成功する」という予感を感じ、一生懸命アドバイスをしてくれる安永さんを尊敬のまなざしでみるのであった。



※ブレーン・ストーミング　「アメリカで開発された集団的思考の技法。会議のメンバーが互いに他を批判することなく自由に意見や考えを出し合って、すぐれた発想を引き出す方法。」

■実現に向けて

【個性と自主性を育むひとづくりを進めよう】

戦後の学歴社会、教育システムは、日本の復興とりわけ経済発展に大きな役割を果たした。一方、知識偏重の傾向が強く、独創性や創造性を育むには必ずしも十分ではないとの指摘もある。経済企画庁の調査によると10代の子供たちへの教育において充実すべき内容として「異なる文化に対する受容力」「自分の意見を表現する能力」「協同行動に主体的に参画する能力」などが上位を占めている。このように21世紀を担う子供にとって大切なことは、一人ひとりの個性を伸ばす教育、異なる価値観を理解できる教育、自主性・主体性を育む教育を進めることであると思う。私たちはそのための※ＡＰとして、体験型学習、交流型学習、自分の意見をはっきり述べる討論研修、芸術・環境など創造性を育む学習の実施等をこれまで以上に積極的に進めていきたいと考える。

【思いやりを育むひとづくりを進めよう】

私たちは子供の頃に「よく学び、よく遊べ」ということばをしばしば耳にしたが、現代の子供たちは塾やファミコンに忙しく、遊びを通して社会のルールや思いやりを覚える機会は少なくなってきている。人を思いやる心、ものを大切にする心、自然を慈む心など自分以外に心を通わすことは、いつの時代、どの年代にとっても人間として最も大切なことであり、特に感受性の強い青少年期に自然とのふれあい、他人とのふれあいを通して思いやりを育む教育を進めることは極めて重要なことであると思う。私たちはそのためのＡＰとして、異年齢の子供、高齢者、障害者、外国人との交流、動植物や自然とのふれあいの機会と場の提供、例えば異学年合同授業の実施、ボランティア活動、自然林の保存・活用等をこれまで以上に積極的に進めていきたいと考える。

【地域と一体となったひとづくりを進めよう】

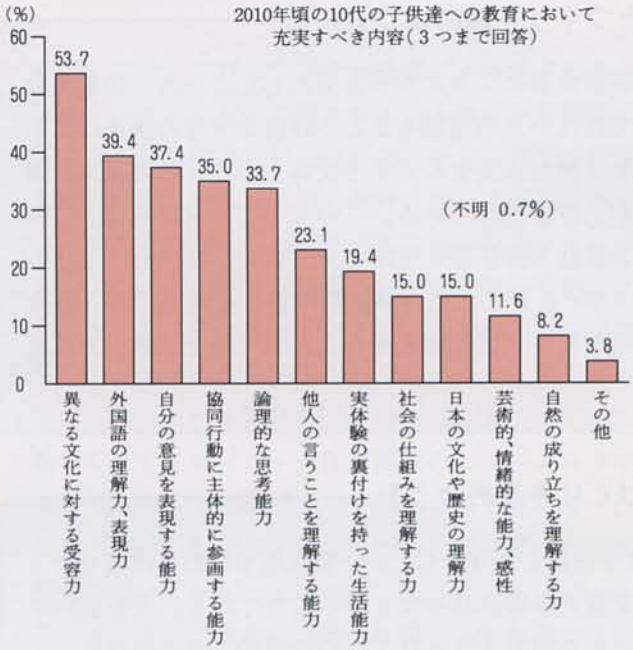
個性と自主性を育む教育、思いやりを育む教育は決して学校教育の中だけでできるものではない。特に少子化、核家族化、女性の社会進出、都市化などの進展により、家庭や地域での人間関係が私たちの子供の頃に比べて希薄になっている現代だからこそ、地域の教育に果たす役割は極めて大きなものがあると思う。今後は、家庭・学校・地域が一体となった教育をこれまで以上に積極的に進めていくべきであると考える。私たちはそのためのＡＰとして、地域内交流、世代間交流を進める機会と場の提供、例えば学校敷地内へのコミュニティログハウスの整備、地域サポートセンターの併設及び自主運営、各種交流機会の創出などを行っていくべきであると考える。そのためには親・教師・地域の大人自らがこれらの地域活動に積極的に参加していくことが必要である。

【時代の要請に応じられるひとづくりを進めよう】

国際社会の変貌、政治経済体制の変革、高度情報化の進展など現在の子供たちを取り巻く環境は大きくかつ急激に変わりつつある。あと５年余で迎える21世紀へ向けて、今後は①社会活動に積極的に参加するひとづくり②国際社会で積極的役割を果たすことのできるひとづくり③思いやり、助け合う気持ちを持てるひとづくり④環境に関心を持ち、自然や物を大切にすることのできるひとづくり⑤地域の持つ歴史・文化を継承し、自分のまちを誇りに思うひとづくりを進めていくことが大切であると思う。そのためのＡＰとして、子供の教育を学校や塾などにまかせがちな私たち自身の意識変革を行い、子供の教育は我々親の責任であることをあらためて自覚し、自分自身のひとづくりからスタートしたいと考える。

※ＡＰ　「アクションプログラム」

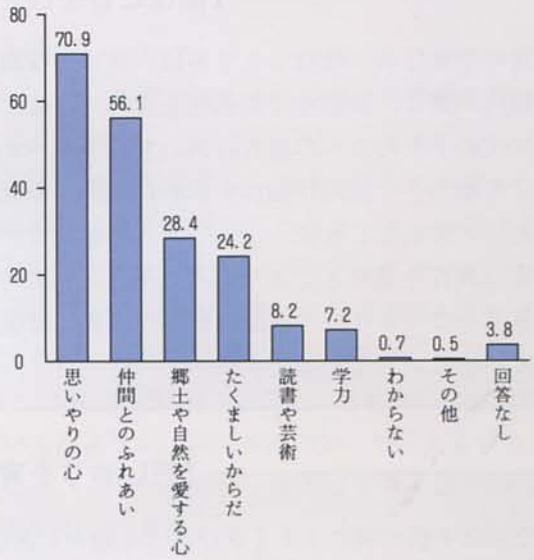
① 10代の子供達への教育



「今後20年間を見通した場合、我が国の10代(15,16歳くらいまで)の子供たちに対する教育(学校教育に限らず、社会全体として)において、特にどのような能力を高める教育を充実していくべきだと思いますか」に対しての回答

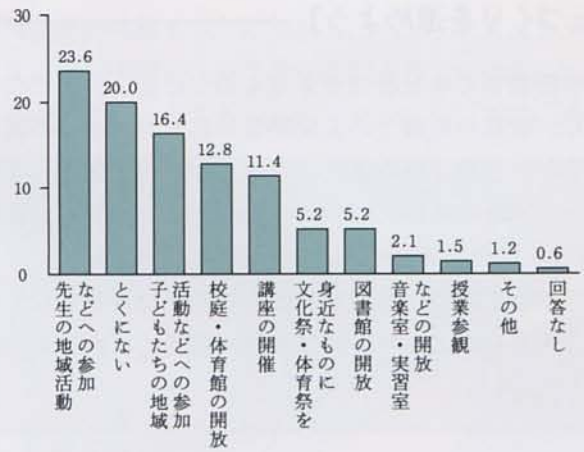
出所：1991年経済企画庁総合計画局「2010年の国民生活の展望に関する調査」(N=741人)

② 青少年教育で、特にだいじなこと



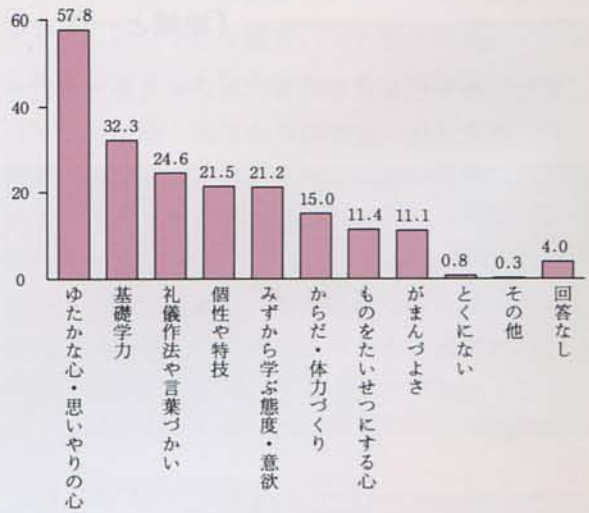
「青少年教育で、特にだいじなこと」について、回答者の全体的傾向をまとめたものである。圧倒的に多いのが、「思いやりの心を育てること」(70.9%)である。そして「仲間とのふれあいをたいせつにさせること」(56.1%)、「郷土や自然を愛する心を育てること」(28.4%)、「たくましいからだをつくること」(24.2%)と続く。

③ 学校への期待



「近くの学校に、どのようなことを期待するのか」という質問に対する結果について、回答者全体の傾向をまとめたものである。この質問に対して、78%余の人が学校になんらかの期待を示している。「先生が地域の活動などに積極的に参加してほしい」とする比率が最も高く、23.6%次いで「子どもたちを地域の活動などに積極的に参加させてほしい」が16.4%あった。
さらに、第3位は「校庭や体育館を使わせてほしい」で12.8%あった。

④ 学校教育のはたすべき役割



「これからの学校教育のはたすべき役割」について、回答者全体の傾向をまとめたものである。「ゆたかな心・おもいやりの心を育てること」が57.8%と高い比率を示している。第2位は「基礎学力の定着」(32.3%)で、「礼儀作法や言葉づかい」「個性や特技」「みずから学ぶ態度・意欲」がそれぞれ20%台で並ぶ。

②③④ 出所：1990年鹿児島県教育委員会
「県民の学習状況と学習希望に関する調査報告書」調査対象
県内に居住する成人1,801人

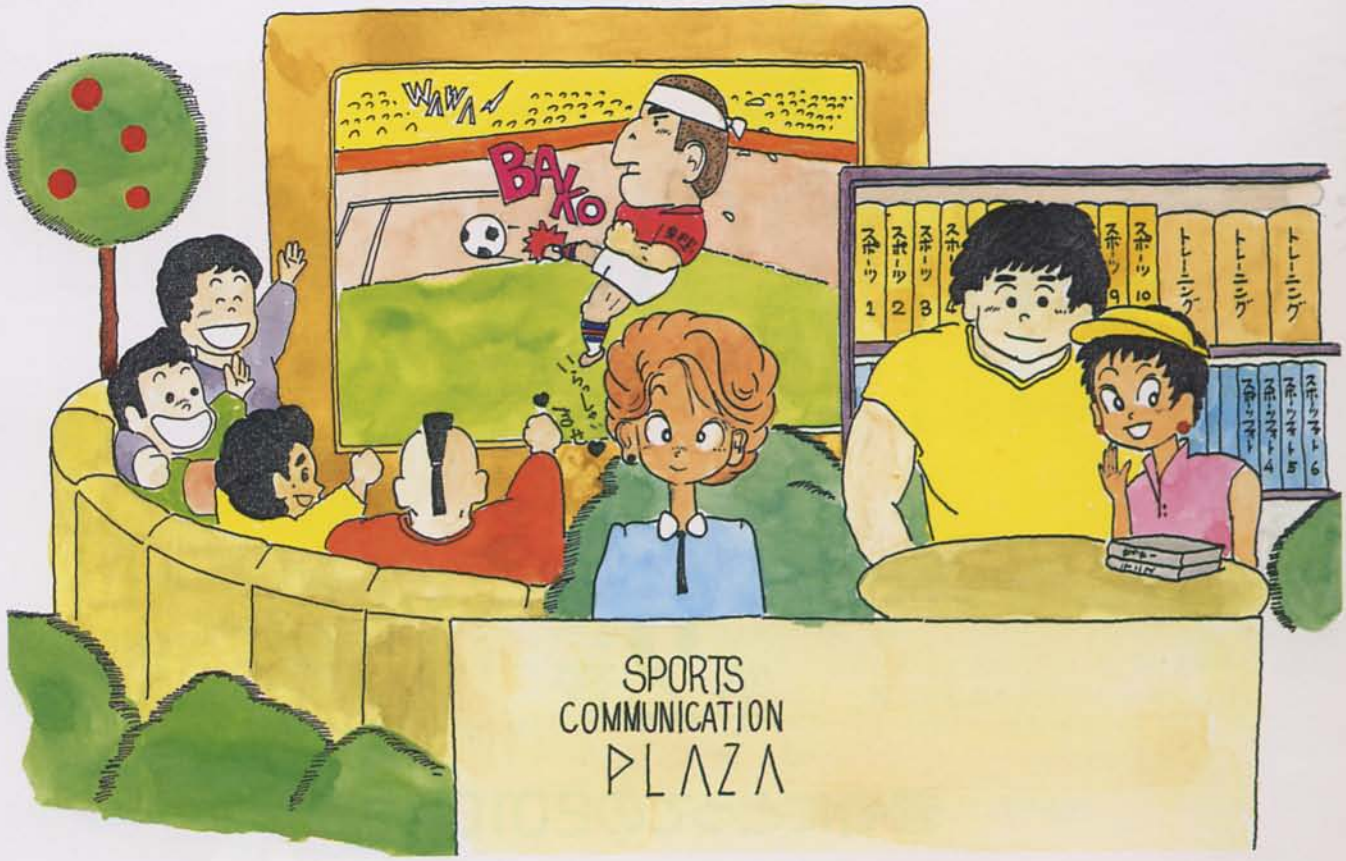
2010年物語

第2章

▶ 若者にとっての2010年 ◀

遊ぶ

SCENE スポーツ交流プラザ 1
シーン1



年末年始を南国鹿児島で過ごし、全国各地へ帰る人々でごった返す鹿児島中央駅の新幹線ホーム。隣接する駅ビルのデパート、専門店街も初商で賑わっている。また中央駅の周辺には、九州新幹線の開通と前後して再開発ビル、ホテルなどの完成が相次ぎ、かつての西鹿児島駅時代とは景観を一新している。

その中の一つ、シネマシアターやギャラリー、市民サークルが気軽に利用できるホールなどが入っている再開発ビルには、スポーツ交流プラザがあり、スポーツ好きの若者たち、スポーツ関係者の情報交換の場として多くの人々が出入りしている。

このプラザは市民、企業、スポーツ団体、行政などが出資しているスポーツ交流財団によって運営されている。ここでは、世界・日本・県内のスポーツ大会の開催状況がわかるスポーツインフォメーションコーナー、様々なスポーツシーンの映像を見れるＡＶコーナー、サークル仲間の募集などを呼びかけるサークルインフォメーションコーナー、スポーツ団体のネットワーク化を図るために各団体事務局が入居するフロアなどで構成されている。

翔(しょう)は、恋人の渚(なぎさ)と来月鹿児島で開催されるＪリーグの試合を見たいと思い、そのチケットを交流プラザのプレイガイドで購入するため、渚と中央駅前広場で10時に待ち合わせた。その後は、シネマシアターでリバイバルヒット中の『ニュー・シネマ・パラダイス』を一緒に見る予定にしている。

「翔、遅くなってごめん。待った？」

「いや、僕も今、来たところだ。」

「冬休みだけに子供たちが多いわね。」

「そうだね。それにもうすぐ10時だから、人形が動きだすのを見るために子供たちが集まってきたんだよ。」

広場には子供達に人気のハイテク駆使のカラクリ時計があり、家族連れなど多くの人々が集まって人形が動き出すのを今か今かと待っている。

２人が交流プラザに来ると、ＡＶコーナーは高校サッカー決勝戦「鹿実ｖｓ国見」が生中継されているため、黒山の人だかり。一挙手一投足に大きな歓声があがっている。

今年は、鹿児島でもアメリカズカップ、プロ野球「アジアリーグ」など各種スポーツの世界レベル、全国レベルの大会の開催が目白押しで、スポーツファンにとってはワクワクする一年になりそう。

SCENE 2 新交通システム“シティライナー”

南国鹿児島とはいえ冷え込みの厳しい２月のある日。

皇徳院ニュータウンにある翔の自宅はホームオートメーションにより室内温度が一定温度以下になるとセットされた時刻に暖房が入る、太陽エネルギーを利用したエアコンが完備しているため、爽やかに目を覚ますことができる。

「雪か。道路は大丈夫かな？」

リビングルームの窓の外を見ると、積雪した桜島が見える。翔は市南部の臨海工業地域にある航空宇宙関連企業日本ＣＯＳＭＯＳ社に勤務しているが、会社までの道路に渋滞、通行止めなどがないか、さらに積雪はないかなどをＣＡＴＶの道路情報サービスや天気予報サービスで見て、その心配がないことを確認し、安心する。

ところで自家用車の市街地乗り入れの時間規制、※パーク・アンド・ライド方式の導入、公共交通機関利用促進運動などに加え、バス路線の再編、バス専用路線の設置、通勤通学バスの大型化などにより、バス通勤の利便性、快適性、定時性が高まったことで、通勤を自家用車からバスに代える人が増えてきている。このため朝夕の通勤ラッシュが緩和されてきている。また現在、郊外の各団地と中央駅などの交通結節拠点、さらに空港とを結ぶ新交通システム“シティライナー”が、2015年の全線開通に向けて急ピッチで建設工事が進められているが、これが完成すれば交通問題は一気に解消されることになる。

翔は朝食をすまし、コートの襟を立てながらバス停へと急いでいると、シティライナー開発㈱に勤務する三木さんに出会う。

「三木さん、おはようございます。寒いですね。今日は出張ですか。」

「おはよう、翔くん。来月の“シティライナー”の試運転に向けて、香港の本社で打ち合わせがあるんだ。今年に入って香港はもう５回目だよ！」

翔は、バスに乗るとさっそく毎朝聞いているＦＭにチャンネルを合わせ、イヤホーンで音楽を聞きながら、新聞を広げた。

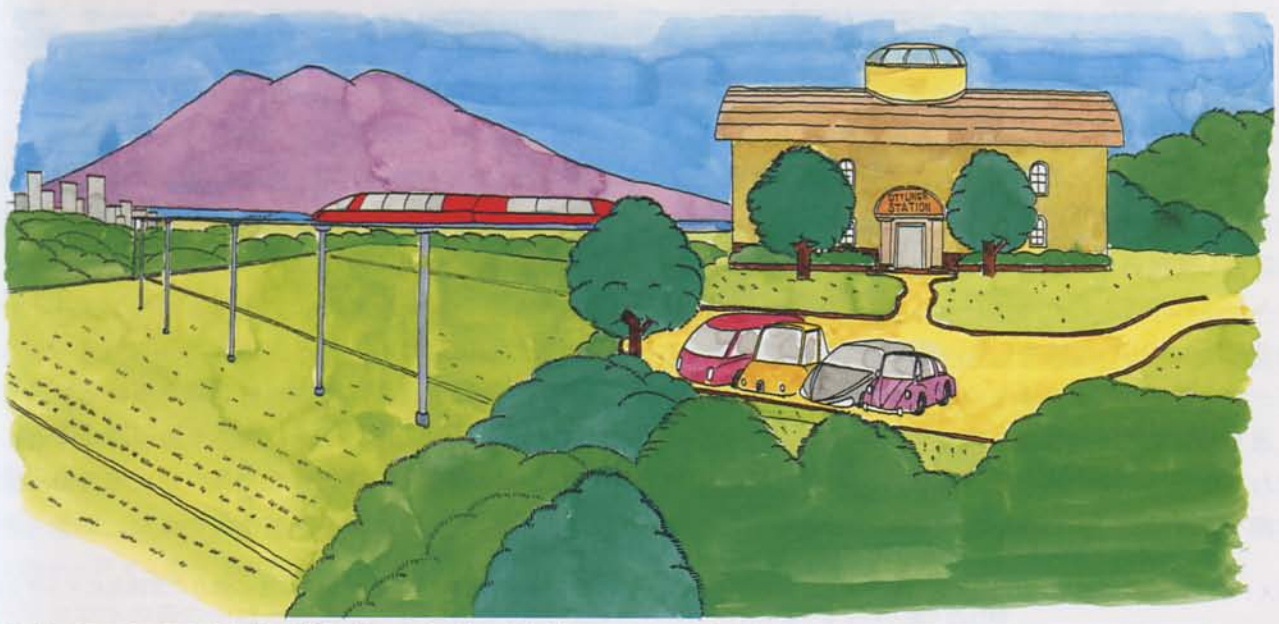
◇　◇　◇

翔の帰宅後の楽しみは、衛星放送でかつて住んだことのあるシンガポール、香港などのニュース、映像を鹿児島産ワインを飲みながら楽しむこと。今日も暖炉のあるリビングルームの壁に設置した100インチのハイビジョン画面に映し出されたなつかしい風景や思い出の場所を見ては当時を懐かしんでいる。その時、テレビ電話の呼び出し音。画面を映すとシンガポール時代の友人で鹿児島留学の経験もある黄（コウ）さんからである。

「翔、元気かい。鹿児島は寒いだろう。久しぶりにシンガポールへ遊びに来いよ！」

翔は、ＣＡＴＶで鹿児島～シンガポール間の飛行機の空席状況、シンガポールから鹿児島へ進出している同系列のホテルの空室状況を確認すると余裕ありの表示。

「ＯＫ！今度の金曜日から１週間のリフレッシュ休暇を利用して遊びに行くよ！」



※パーク・アンド・ライド方式　「都心部への車の流入を抑制するために、自家用車は最寄りの拠点の駅やバス停周辺に準備された駐車施設に車を置き、公共輸送機関（電車・バス等）で、移動する方式。」

SCENE 南の歴史・文化都市 3
シーン3

4月の鹿児島市はツツジやポピーなどの花々が咲き乱れ、花に埋もれる街となる。

市役所前電停は海を意識したデザイン、加治屋町電停は歴史を意識したデザインなど、市街地を走る路面電車の電停は、その地域の個性を表した※ストリートファニチャー的なものとして若い女性に人気があるが、とりわけ、この季節は電停のフェンスに絡まった色とりどりのバラの花で人気があり、電車に乗り降りするたびに様々な香りも楽しめる。

また個性的なデザインのレトロ調電車、子供に人気のアニメ電車など路面電車は見ても楽しめるものになっている。

春休みを利用して北海道から空路鹿児島入りした西川たち北海道芸術大学のグループ。

「暑いなあ！見ろよ、もう半袖のシャツを着ている人がけっこういるぜ！」と西川。

「北海道では今朝はまだ霜が降りていたのに。一気に冬から夏だな！」と加藤。

さっそく、今回の旅の目的の一つである黒潮浪漫(ロマン)海道のテーマで知られた“かごしま水族館”を訪れ、南に広がる美しいサンゴの海に思いを馳(は)せる。

その後、県庁跡地の一角に建設された“さつま工芸館”を訪れ、さらに数年前オープンして話題となっている“※田中一村美術館”へ向かう。西川たちは、明治維新、西郷、桜島などから受ける男性的・豪快なイメージの鹿児島と黒田清輝、東郷青児など日本を代表する画家を数多く輩出した鹿児島のイメージが一致せず、何となく不思議な気持ちで鹿児島にやって来ている。



途中の歴史と文化の道は、現在では国道10号線が城山入口から照国神社前まで地下をはしり、上が歩行者空間として整備されたことで、以前にもまして多くの人々が訪れるようになっている。また蔦(つた)のからまる中央公民館や名山小の校舎も長い歴史と伝統を感じさせ、ゾーン一帯を雰囲気あるものにしている。

通り沿いに並ぶ黎明館、市立美術館は多くの人でにぎわっており、その奥の通りも探勝園(たんしょうえん)に加え“近代文学館・人形の館”“田中一村美術館”ができるなど歴史・文化ゾーンは、今や、神戸の異人館街、倉敷の美観地区と並び称されるほどの伝統と感性が調和した都市空間として全国に名を馳せている。

「鮮やかな色づかいだな。」と西川。

「南国らしい絵だよ。」と加藤。

南国ムードに溢(あふ)れた田中一村の絵を堪能した西川たちは、鹿児島の文化レベルの高さを再認識するとともに鹿児島の街を大いに満喫し、次の予定地である屋久島へ行くため、鹿児島本港へと向かった。

※ストリートファニチャー　「通りを彩る構築物。公衆電話ボックス、ベンチ、バス・電車の停留所などが、その通りの雰囲気にマッチした個性的で魅力的なものとして作られている。」

※田中一村　「(1908年～1977年) 栃木県生れ。画壇から遠く離れ、日本画の正道を探求した孤高の画家。作品には、亜熱帯の奄美の自然が息づき、その生き方は、不遇な生活にもかかわらず、芸術家としての誇りに満ちていた。」

SCENE 4 与次郎ヶ浜ウォーターフロントの森



くすの木の新緑が目にしみる５月。かつては空き地や駐車場が多かった与次郎ケ浜。

当初、数台分の区画の境ごとに樹木を植えると同時に駐車スペースの地面を少し掘り下げ、駐車場全体が緑に覆われた感じになるパーキング・パークの整備から始まった与次郎ケ浜は、地域の人々の協力により、多くの駐車場を集約、一部は半地下化し、その上に樹木を植えたことで、与次郎ケ浜全体が緑に包まれた“与次郎ケ浜ウォーターフロントの森”となっている。

そのため、チョウやトンボ、セミやバッタなどの昆虫が生息し、野鳥が飛び交うなど自然の生態系が再生された森の中に遊園地や様々なアミューズメント施設、スポーツ施設が点在する地域へとドラマティックに変貌を遂げている。森の中にある小さな池は野鳥のためのサンクチュアリ（保護区）としてバードウォッチングの場所となっている。

また野外コンサート会場もあり、海の見える森の中のコンサート会場として、観客はもとより、国内外のミュージシャンからも好評を博している。

翔と渚は、日系三世で世界的に有名なジャズピアニストのサーパス・ヒラタのコンサートを聴くため、ウォーターフロントの森の中ほどにある、音楽に合わせて水の出る噴水の前で待ち合わせて、コンサート会場へ向かった。

樹木によって周囲の騒音も遮断されているため、森の中の小道を歩くと、風にさざめく竹林の音や野鳥のさえずりが聞こえてくる。

「静かだな。とても鹿児島市内にいるとは思えないなあ。」

「そうね。それにとってもいい香りがするわ。」

道路沿いには香りのする木が植えられており、香りも楽しめながら歩けるなど、五感に感じる森でもある。そのため、お年寄りや体の不自由な方々なども安心して歩ける場所、やすらげる場所として人気が高い。

子供たちからお年寄りまで様々な娯楽を楽しめるとともに、森林浴を楽しみながら森を抜けると、新しく整備された人工海浜で水にも親しめる空間となるなど、与次郎ケ浜は環境にも配慮した地域として、鹿児島が誇れる場所となっている。

「コンサートが終わったら、その先の砂浜に行こう。少し話したいこともあるし……。」

「なあに、話したいことって？」

「うん、あとで……。」

SCENE マリンシティ 5
シーン5



梅雨明け後、猛暑が続く７月。

錦江湾の上では、噴煙を吹き上げる桜島をバックに10艇余りのヨットが気持ち良さそうに走っている。これらのヨットは首都圏の大学のヨット部が練習しているもの。

一方、平川港区のマリーナではインターカレッジ代表に選ばれた大西たち代表メンバーが高校総体出場を目指す地元中・高校生にヨットの指導をしている。

「もっと気合を入れて！」

大西も中・高校時代、同じように指導を受けて成長してきただけに、郷里の子供たちに対する指導もついつい熱を帯びてしまう。大西の在籍するW大学はじめ主に関東、関西の大学上位のヨット部は、夏休みになると鹿児島での合宿が恒例となっている。特に鹿児島のヨットのレベルは高いため、大学のマネージャーの合宿時の大きな役割の１つは、優秀な選手をスカウトすること。スカラシップ（特待生）を条件に争奪戦が始まりそうだ。

温暖で１年中楽しめるという気候、南北600kmに及び数多くの特色ある離島を抱えるという地理的条件を持ち、このため初心者からベテランまで誰でもそのレベルに応じた楽しみ方が出来るということで、鹿児島に住む若者はもちろんのこと、全国の若者にとっても鹿児島はサーフィン、ジェットスキー、スキューバダイビング、フィッシングなどマリンスポーツのメッカとして全国に名を馳せている。

特に来月からアメリカズカップが開催される鹿児島市は、南北30キロに及ぶ海岸線を活かしたウォーターフロント開発により中央港区の第一人工島には国際級マリーナ、大型観光船バースなどが完成。現在、第二人工島には※コミューター空港を建設中である。その他にも親水緑地や低廉な価格で宿泊できる合宿施設が建設されるなど、国の内外から多くの人々が訪れる都市となっている。

◇　　◇　　◇

いよいよ世界的なマリンスポーツの祭典「アメリカズカップ」が明日から開催される。

１チーム100人を超える各国のレース関係者は、昨年から鹿児島入りし、レースに備えて来た。今年の参加チームは15ヶ国。また海外の報道関係者も1,000人は下らない。このため、昨年から鹿児島の街はおびただしいほどの外国人で溢れんばかりである。鹿児島にとってインフラ整備、観光収入など開催に伴う経済波及効果は計り知れないものがある。

アメリカズカップの本拠地となる国際級マリーナでは、レースを控え、多くの関係者や見学客で賑わっている。上空にはマスコミのヘリコプターが数機、旋回している。

昨年からＫＡＧＯＳＨＩＭＡの映像が、衛星を通じてアジアはもとより世界中へ放送されており、今年は名実ともにマリンシティ鹿児島として人々の記憶に刻まれる記念すべき年となるだろう。

※コミューター空港　「コミューター（通勤者）が通勤に手軽に使える航空便のための空港として、最初はアメリカで発達したが、通勤用には限らず、十数人から数十人乗りの小型機やヘリコプターの発着できる空港を総称して呼ぶようになった。採算制が大きな課題となっている。」

SCENE かごしまコレクション 6
シーン6

立秋を過ぎたとはいえ、まだまだ残暑の厳しい８月下旬のある日曜日。

「潮の香りが気持ちいいわね。気のせいか食事もおいしいわ。」

「やっぱり、ビールは生に限るなあ。何か気持ちよくなって来たなあ！」

錦江湾クルージングを楽しみながら、食事を終えた翔と渚は、本港から天文館へ向かう。

本港と電車通りにはさまれた小川、易居、名山、泉町界隈は、アジアの珍しい小物などを扱う店舗、エスニック料理で有名なレストランなどが並ぶ通り、鹿児島の伝統工芸品を扱う店舗、オリジナルブランドの人気ワインを出してくれる瀟洒なレストランが並ぶ通り、昔ながらの赤ちょうちんや屋台が並ぶ迷路のような路地など、それぞれ個性ある通りとなり、多くの人で賑わっている。

高見馬場からいづろの電車通りは、地域の人々の協力もあって実現した自家用車の乗入れ規制がきっかけで、週末の午後は市電のみの歩行者専用空間となっており、今日も多くの家族連れや若者、子供たちで溢れている。通りではサテライトスタジオから放送される音楽がスピーカーから流れ、その中で高校生たちがストリートバスケットを楽しんだり、外国人インストラクターがオープンフィットネスのデモンストレーションを行うなど賑やか。

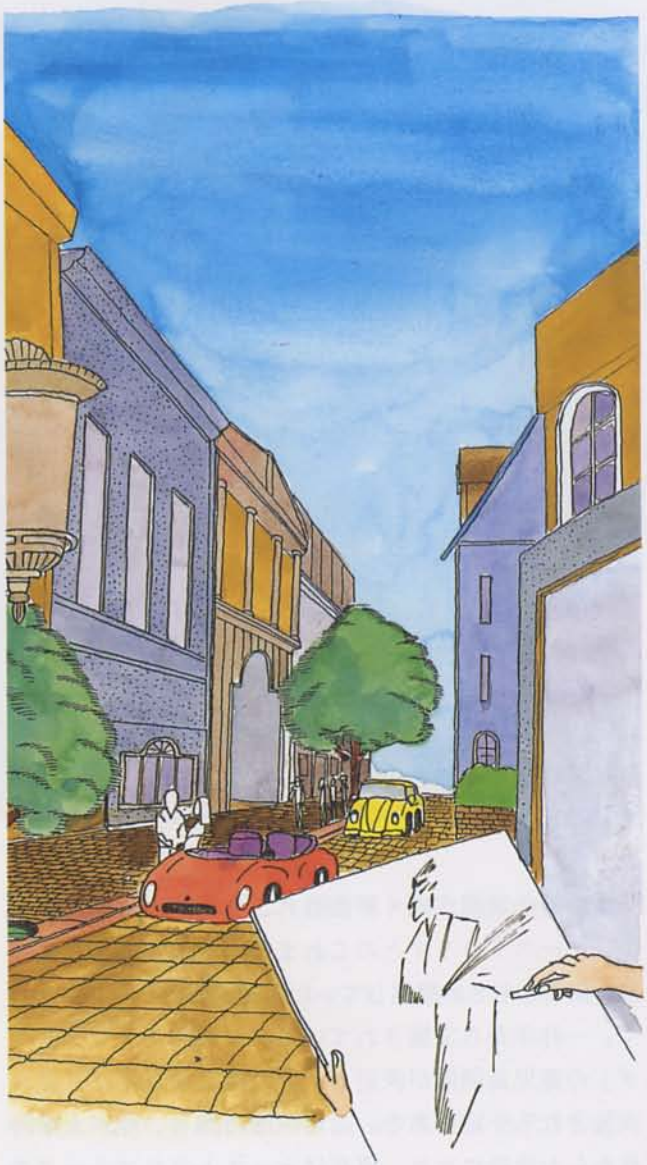
一方、南九州最大の繁華街：天文館の商店街は、開閉ドーム式のアーケードのおかげで快適なショッピングストリートとなっている。かつては碁盤の目のような商店街。現在は、大規模な再開発により、いくつかの通りを取り込んだ20階建の再開発ビル“天文館アーバンビル”１号館、２号館が最近相次いでオープン。これに負けじと各通りも個性がキラリと光る店舗が競い合っている。

「翔、コーヒーでも飲まない？」

「そうだな。じゃあ、この先のカフェテラスに行こうか。」

翔と渚は、店舗間の空き地にできた南欧風のプチテラスで少し休むことにした。こうした空き地は通り会が借り上げ、ハイビスカスや椰子の木がセットされた亜熱帯地方の雰囲気を醸しだすポケットパークをつくるなど、アメニティ豊かな空間として潤いを与えている。また若い女性に人気が高いオリジナルブランドを開発している店舗もあり“かごしまコレクション”として知られるなど、天文館はアジアに向けた情報発信基地となっている。中心市街地は、こうした整備の結果、人々を引きつける街、歩いて飽きさせない回遊性のある街並みに一新されている。

ところで、今日のデートの目的は渚の誕生日プレゼントを買うこと。渚もかごしまコレクションのファンでブティックをいくつも周るが、気に入ったスカイブルーのワンピースが、なかなか見つからない。翔もショッピングに付き合うのは嫌いではないが、いいかげん疲れてきた。そうかといって、いやな顔もできないし……いつの時代も男はつらいよ。



SCENE 7 鹿児島フェニーチェVS札幌スノーマジック

シーン7

秋晴れの続く10月。

1993年から始まったＪリーグ。その後も地方都市をホームタウンとし、地域に根ざしたチームが増えたことで今も高い人気を誇っている。鹿児島にも念願の市民球団“鹿児島フェニーチェ”が設立され、現在では年10回を超える試合が鹿児島でも開催されている。

今日は札幌をホームタウンとする“札幌スノーマジック”との試合が、鹿児島スタジアムで行われるため、翔は渚と車でスタジアムへ向かった。

「今日は県外ナンバーが多いわね。」

「そうだね。高速道路網が整備され、九州各地から短時間で鹿児島へ来れるようになってから、鹿児島で開催されるスポーツ大会、イベント等にも県外から多くの人が集まるようになったね。」

一方、90年代後半、サッカー人気の上昇により一時期低迷したプロ野球も、その後、再び人気を盛り返している。

オリンピックの年に各球団の本拠地以外で開催されるようになったオールスター戦。1992年の仙台、96年の富山などに続き、2008年には３年連続３冠王をとった“ゆうさん”こと香山雄太郎が所属する「サザンクロス」のキャンプ地ということから、鹿児島で開催された。

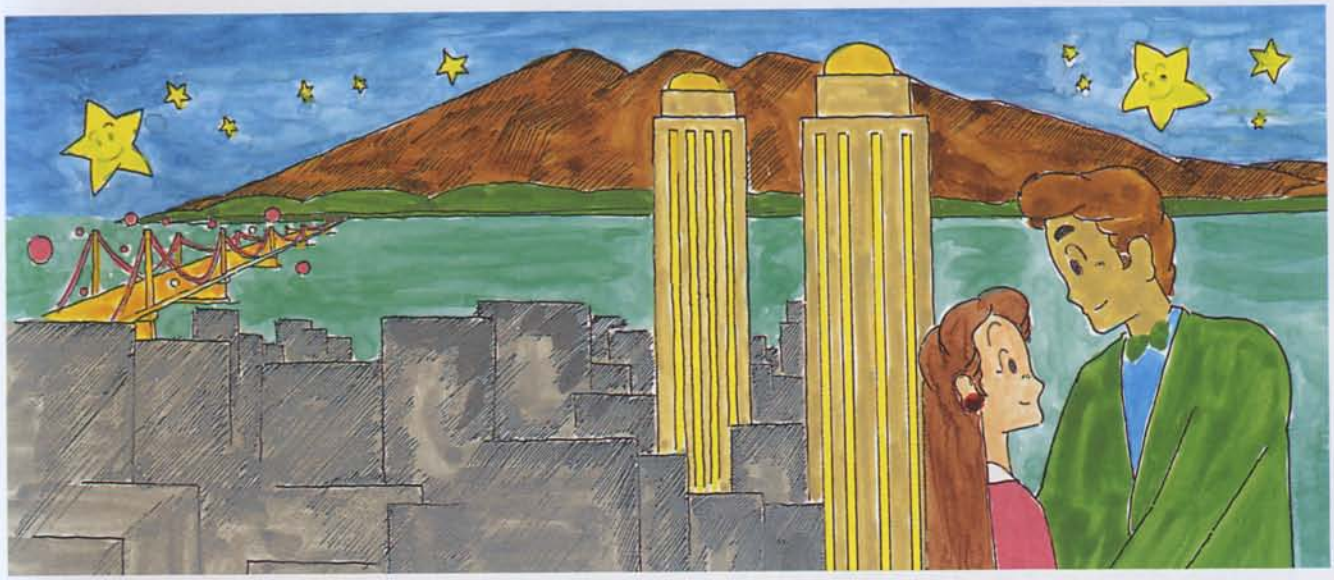


この時の実績が高く評価され、また韓国、台湾、中国、オーストラリアとのこれまでの交流実績から鹿児島の素晴らしさに感銘していた各国関係者の熱意によって、一昨年から実施されているプロ野球「アジアリーグ」の鹿児島開催が決定し、いよいよ来月には３試合実施される予定である。この開催に際し、翔が大学時代からお世話になり、現在はオーストラリアリーグのコミッショナーであるニューカム氏から「レベルの高い日本で、しかも私の古い友人のいる鹿児島で開催されることに感謝する。」というメッセージが届けられている。

黄色に色づきはじめたイチョウの大木に囲まれた鴨池球場には、この試合を見るために県内外から多くの人々が訪れることだろう。

ここ数年の数々のスポーツ試合の開催により、鹿児島はスポーツシティとして広く世界に知られる街となっている。

SCENE クリスマスイブ・イン・天文館 8
シーン8



今日はクリスマスイブ。街には小雪がちらついている。街路樹が植えられた錦江湾アベニューや天文館通り、みなと大通り公園などは、美しくライトアップされている。

翔と渚は、ベイエリアのレストランで錦江湾に浮かぶクルーザーや市街地と桜島を結ぶ“ボルケーノブリッジ”を眺めながら、食事をとっている。ブリッジの上は、志布志港に誘致された※テクノスーパーライナーへ荷を積むためのトレーラーが、ひっきりなしに通過している。今日はイブのせいか、車のテールランプもひときわ美しく感じる。

「そういえば、去年は谷山の“アウトサイドテラス”でイブを楽しんだわね。」

「うん、きれいな星と君の笑顔が印象的だったなあ。」

はにかむようにささやく渚と、照れるようにつぶやく翔。

食事が終わると、翔はフランスから個人輸入したアクセサリーを渚にプレゼント。渚もイタリア製の生地から選んでオーダーメイドしたオリジナルシャツを翔にプレゼント。

「クリスマス・チャリティパーティまで時間があるから星を見に行こう！」

パーティ会場となっている天文館アーバンビル１号館の屋上には、天文館の地名発祥にちなんだ天文ドームが設けられ、満天の星を眺められる場所として若者に人気のデートスポットとなっており、２人はドームでパーティまでの時間を過ごすことにする。

１号館へ向かう途中のアーケード内の各通りではナイトバザールが開かれ、各ショップのウィンドーのディスプレーも雰囲気を盛り上げるなど、思い思いにクリスマスイブの夜を楽しんでいる人々で活気づいている。

「私が子供の頃、夜、天文館を家族連れで歩いた記憶なんてほとんどないわ。」

「そうだね、昔は午後７時すぎにはほとんどの店がシャッターを降ろしていたからね。今では毎週土曜日の夜にはナイトバザールが開かれているし、午後10時まではウィンドーショッピングも楽しめるから、本当に家族連れが増えたね。」

星空を満喫した二人が20階の会場へ急ぐと、シャンパンで乾杯しようとするところ。今日のパーティの益金は、鹿児島国際化推進協議会がアイムビルに開設した“アップデイト”の運営等に使われることになっている。最近は若者にもボランティア意識が根づき、この種のパーティが開かれると多くの若者が参加している。パーティには欧米、アジア各国の人々も多数参加しており、英語、中国語、ハングルなどが飛び交う国際色豊かなものになっている。

翔はドレスアップした渚とスローな曲に合わせながら、ささやいた。

「これからの長い人生をいつまでも君と育んでいきたいんだ。」

「私でいいのかしら！」

嬉しそうに答える渚。翔は、そのひとことで十分だった。

※テクノスーパーライナー　「速力50ノット（時速約93km）、貨物積載重量1,000トン、航続距離500海里（約930km）、波浪階級６程度の荒れた海でも安全に航行できる超高速貨物船。1990年代後半に実用化の見通しである。」

■実現に向けて

【スポーツシティ鹿児島を実現しよう】

鹿児島市には鹿児島アリーナ、鴨池球場、陸上競技場などがある他、本格的専用球技場の建設も計画されるなどハード面は次第に整備されつつある。一方、ＡＳフリューゲルスの特別活動区域指定、ロッテのキャンプ、高校野球・サッカーの活躍などソフト面においても他の地域よりもかなり恵まれた環境にある。私たちはこの環境をさらに活かし、若者が誇りに思えるまちづくりを進めるために『スポーツシティ鹿児島』を実現させたいと思う。そのためのＡＰとして、スポーツ交流財団の設立、スポーツ交流プラザの整備、プロ野球オールスター戦や「（仮称）アジアリーグ」など世界レベル、日本のトップクラスの大会の招致活動などを積極的に展開し、これらを通して新しい鹿児島のイメージアップを図っていきたいと考える。

【マリンシティ鹿児島を実現しよう】

温暖な気候、南北600キロに及ぶ県域、個性的な島々を持つ鹿児島県の中にあって、その中心である鹿児島市は30キロに及ぶ海岸線、20キロの範囲と７つの港区からなる鹿児島港を持ち、全国２位（Ｈ４.約702万人）の年間利用乗降客数を誇る港湾都市でもある。昨年県は2005年を目標年次とする鹿児島港の港湾計画（改訂）を策定したが、これが完成すれば大型観光船ふ頭、マリーナ、臨港道路などハード面の整備が一気に解決されることになる。私たちはこの整備とあわせて雄大な桜島を抱く美しい錦江湾、さらには太平洋にいたる海を活かした『マリンシティ鹿児島』を実現させたいと思う。そのためのＡＰとして、マリンスポーツの合宿施設の建設、学生・社会人の合宿の誘致、アメリカズカップの招致などを積極的に展開していきたいと考える。

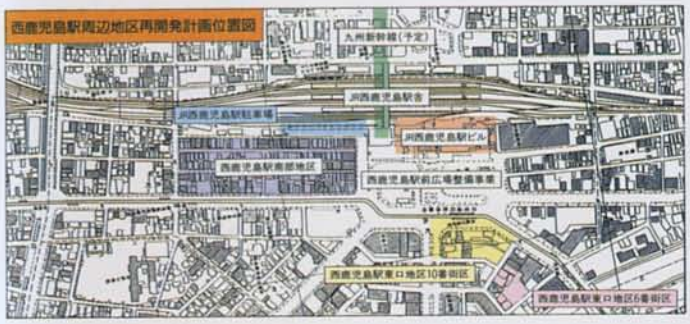
【アートシティ鹿児島を実現しよう】

島津氏の城下町として700年の歴史を持ち、近代日本の黎明期においては幾多の英傑を輩出した歴史のまち鹿児島市。一方では黒田清輝、東郷青児など日本近代洋画の確立に貢献した人々を生んだ芸術のまちでもあり、現在、市立美術館、長島美術館など文化施設にも恵まれている。全国には神戸といえば異人館、倉敷といえば大原美術館など歴史や文化と都市のイメージが一体となって全国に情報発信している都市がある。私たちは鹿児島もこれらの都市に匹敵する歴史と文化を持っていることを再認識し、伝統と感性、過去と現代が調和した『アートシティ鹿児島』を実現させたいと思う。そのためのＡＰとして、歴史・文化ゾーンの一体的整備、新たな芸術文化の創造、季節感のある魅力ある景観づくりなどを積極的に展開していきたいと考える。

【ドラマティックシティ鹿児島を実現しよう】

鹿児島市は西鹿児島駅、鹿児島港、市内から約40分の鹿児島空港と交通結節拠点をフルセットで持っているが、そのメリットを十分に活かしきっていない面がある。また南九州随一の繁華街：天文館を抱える中央地区の商店街は大規模店舗の郊外への立地等に伴い、市内における地区別年間商品販売額の比率も年々低下しつつある。私たちは鹿児島の交通結節拠点としての優位性を活かすと同時に天文館のリストラを図ることによって『ドラマティックシティ鹿児島』を実現させたいと思う。そのためのＡＰとして、九州新幹線、西回り自動車道、東西・南北幹線道路など広域高速交通網の整備促進、新交通システム、ボルケーノブリッジの建設検討、西鹿児島駅の名称変更検討を進めるとともに、天文館の再開発、本港背後地区のリフレッシュ等ハード面の整備、ナイトバザールの実施、ショーウィンドーの演出などソフト面の工夫も図ることによって、県内外から多くの人々が訪れる活気に満ち溢れた、集客力のあるまちづくりを積極的に展開していきたいと考える。

西鹿児島駅周辺地区再開発計画位置図



西鹿児島駅東口10番街区市街地再開発事業イメージ図



「鹿児島市の再開発　1994.3」より

かごしま水族館（仮称）完成予想図



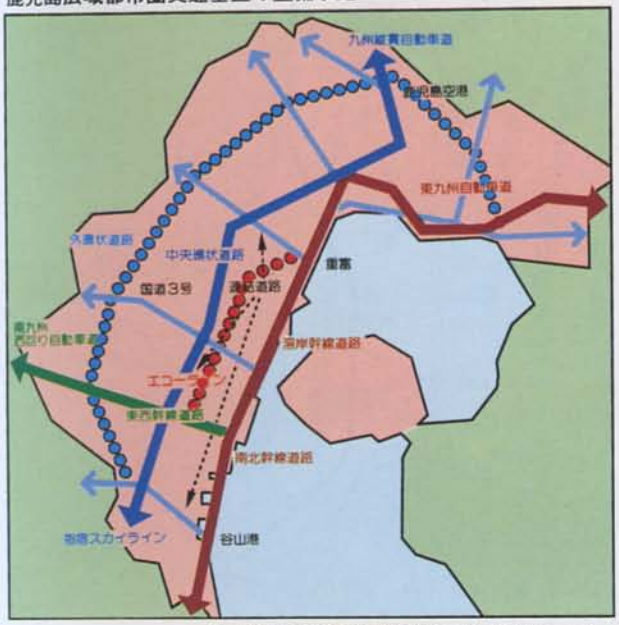
「かごしま水族館(仮称)実施設計」より

近代文学館(仮称)及び人形の館(仮称)外観イメージ図



「近代文学館(仮称)及び人形の館(仮称)基本計画」より

鹿児島広域都市圏交通基盤の整備予定



「鹿児島広域都市圏整備の基本方向」より

地区別年間商品販売額

項目	年次＼地区		計	中央	上町	西駅	鴨池郡元	伊敷草牟田	谷山
年間商品販売額（万円）	1991年		303,880,944	82,813,189	12,816,199	25,388,823	110,308,015	10,216,804	62,337,914
		構成比（%）	100.0	27.2	4.2	8.4	36.3	3.4	20.5
		指数	236.6	160.4	53.9	257.2	496.0	262.3	366.7
	1988年		247,715,233	65,470,974	10,725,163	20,636,289	91,841,826	8,615,489	50,425,492
		構成比（%）	100.0	26.4	4.3	8.3	37.1	3.5	20.4
		指数	192.9	126.8	45.1	209.0	413.0	221.2	296.6
	1985年		239,153,931	66,992,208	9,441,120	18,192,032	90,333,031	8,428,608	45,766,932
		構成比（%）	100.0	28.0	4.0	7.6	37.8	3.5	19.1
		指数	186.2	129.8	39.7	184.3	406.2	216.4	269.2
	1982年		216,689,092	63,947,805	43,686,767	18,646,858	45,666,587	7,390,246	37,323,829
		構成比（%）	100.0	29.5	20.2	8.6	21.1	3.4	17.2
		指数	168.7	123.9	183.6	188.9	205.4	189.7	219.5
	1979年		173,276,047	56,078,255	36,139,868	12,781,032	34,473,526	5,429,866	28,373,500
		構成比（%）	100.0	32.3	20.9	7.4	19.9	3.1	16.4
		指数	134.9	108.6	151.9	129.5	155.0	139.4	166.9
	1976年		128,416,975	51,619,130	23,792,064	9,872,890	22,237,441	3,895,058	17,000,392
		構成比（%）	100.0	40.2	18.5	7.7	17.3	3.1	13.2
		指数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

「鹿児島市の商業(1991年商業統計調査結果)」より

港区別利用計画

（ゾーニング図）

本港区

離島航路を集約するとともに，ウォーターフロントの魅力を活かした観光・商業・アメニティー施設の導入を図ります。

○概要
- 離島航路の集約（高速船対策）
- 賑わい空間の形成
- マリーナの整備(60隻)

新港区

離島航路の本港区への移転に伴い，貨物船ふ頭及び大型化する官公庁船の船だまりに利用します。

○概要
- 貨物船ふ頭
- 官公庁船だまり

鴨池港区

垂水フェリー，海上バスによる海上交通体系の充実を図るとともに，親水空間の整備を図ります。

○概要
- 県庁移転後の交通結節点（フェリーふ頭，海上バス，親水緑地(6ha)等の整備）

中央港区

□人工島…大型観光船ふ頭を柱とした国際交流機能の強化を図ります。
□旧南港区…石油，砂・砂利等の機能を谷山地区に移転し，親水緑地や港湾業務用地等の新たな土地利用を図ります。
□旧木材港区…外材取扱機能を拡充整備するとともに小型船だまりの整備を図ります。

○概要
- 国際交流機能の強化（人工島 67ha，大型観光船バース（7万ﾄﾝ級，-12m岸壁），国際級マリーナ(300隻)，国際見本市場 等）
- 旧南港区の再編
- 木材ふ頭の強化（−12m岸壁）

谷山一区

5万ﾄﾝ級の外貿ふ頭を整備するなど物流機能を強化します。

○概要
- 外貿機能の強化 5万ﾄﾝ級(-14m岸壁)等の整備

谷山二区

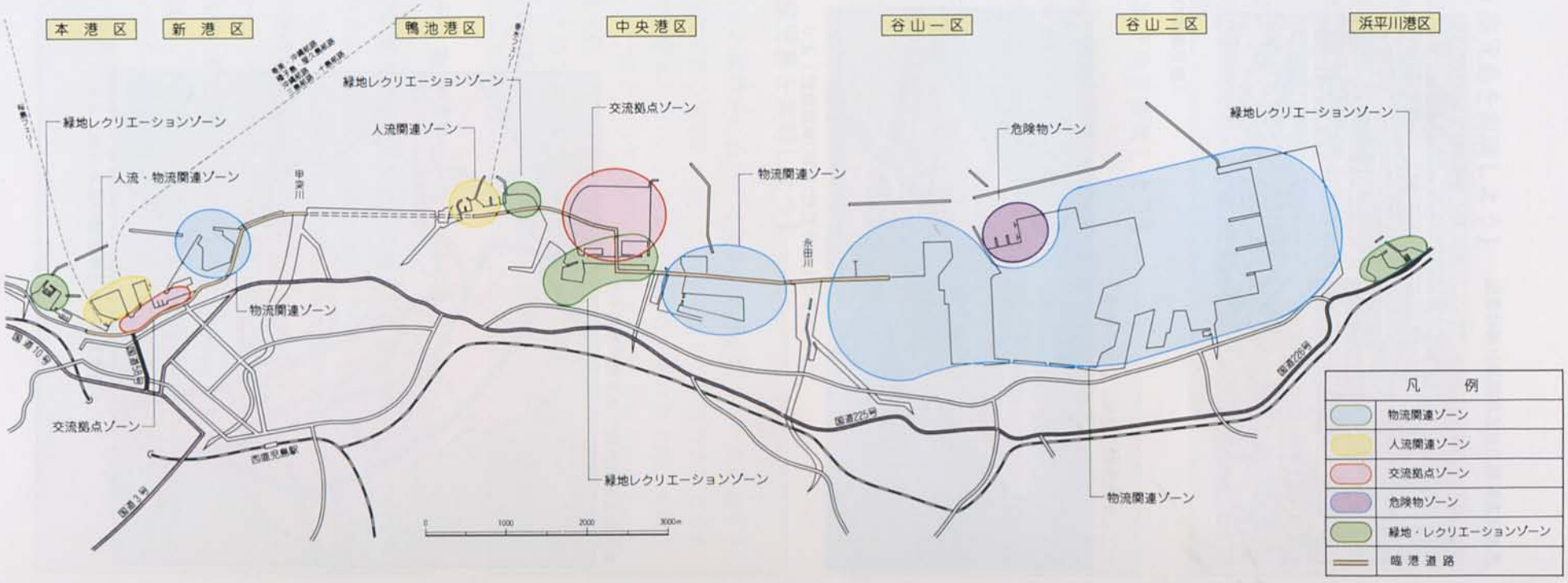
旧南港区からの移転用岸壁を整備し内貿機能を強化します。

○概要
- 物流機能の再編強化 旧南港区からの移転岸壁等の整備（−7.5m岸壁 6バース等）

浜平川港区

マリーナ機能の充実や漁船だまりの整備を図ります。

○概要
- 漁船とヨット等の分離



21世紀に向けた新たなウォーターフロント計画「鹿児島港」より

2010年物語

第3章

▶ 働きざかりにとっての2010年 ◀

働く

SCENE 日本COSMOS社
シーン1

1

人類にとって最後のフロンティアである宇宙。

かつてはアメリカやロシアに遅れをとっていたわが国の宇宙技術も、今や世界のトップレベルにある。

特に鹿児島県は、20世紀に内之浦、種子島という2つのロケット発射基地を持っていたことから様々な宇宙関連施設の投資が行われてきた。このような中で今世紀に入りH－II型ロケットの実用化で開発されたHOPE（国産シャトル）の着陸場、“鹿児島宇宙研究所”の建設が決まったことが弾みとなり、航空宇宙関連企業の日本COSMOS社がアジアの拠点として進出、さらに宇宙産業学部を持つ鹿児島国際大学（KIU）が開校したことで機体整備・電子機器・情報解析など航空宇宙関連産業の進出が相次ぎ、今や鹿児島は21世紀のリーディング産業である航空宇宙産業の日本を代表する拠点となっている。

「翔、急で申し訳ないが、あさって、アメリカ支社へ出張してくれないか」

「OK、リチャード。ところで用件は何だい。」

「スペースプレーンのパーツの国際パテント（特許）の件で急に会議をするという連絡が入ったんだが、私は明日からオーストラリアに行かなければならないので、代わりに出席して欲しいんだ。もし、これを取得できれば、わが社にとって新たな展開が図られることになり、年商が2000億円を超えるのもそう遠いことではなくなるだろう。ところでCATVによる航空宇宙通信情報サービスの提供を手がける㈱鹿児島スペースフロンティアとの話はうまく進んでいるかい。」

「鹿児島は、宇宙センターやKIUからの技術援助、県からの研究開発補助など地元の関連企業に対する支援体制が他の地域より充実しており、フロンティア社との提携は絶対成功するよ。」

大学、研究所など高等研究機関との連携、進出企業が持つ高度技術の地場企業への移転、それに伴う独自の技術開発が積極的に行われるようになったことで、鹿児島の産業構造は量的にも質的にも大きな変貌を遂げている。

またKIUに宇宙産業学部をはじめとする時代の最先端をいく科学系学部が設置されたことで科学技術の新たな展開が図られるようになっただけでなく、産業・学術両面においてグローバルな交流が行われ、創造性豊かな人材が数多く育ってきている。

その結果、就業機会の大幅な創出が図られ、地域経済が活性化するとともに、所得水準の向上、高次都市機能の集積が進展し、鹿児島は生活する市民にとっても産業活動を行う企業にとっても魅力あるまちとなっている。



SCENE 2 サテライトオフィス

シーン2

横山の朝は、いつもジョギングから始まる。

祇園之洲のマンションに住む横山は、毎朝、桜島方面から上がる太陽の光を浴びながら、多賀山公園から磯街道を通り抜け、磯浜までを往復した後、軽い朝食をとり、会社に向かうのが日課となっている。横山が勤務するフロンティア社のサテライトオフィスは自宅から歩いて2分の所にある。

「東京にいた頃と比べると天国と地獄の差だ。」

と昔を振り返る。横山は鹿児島大学を卒業後、東京の通信機器メーカーに勤めていたが、住環境の悪さと通勤地獄に嫌気がさしていた。その頃、ＣＡＴＶの全国求人情報サービスでふるさと鹿児島の企業であるフロンティア社の名前を見つけ、3年前にＵターンしてきた。

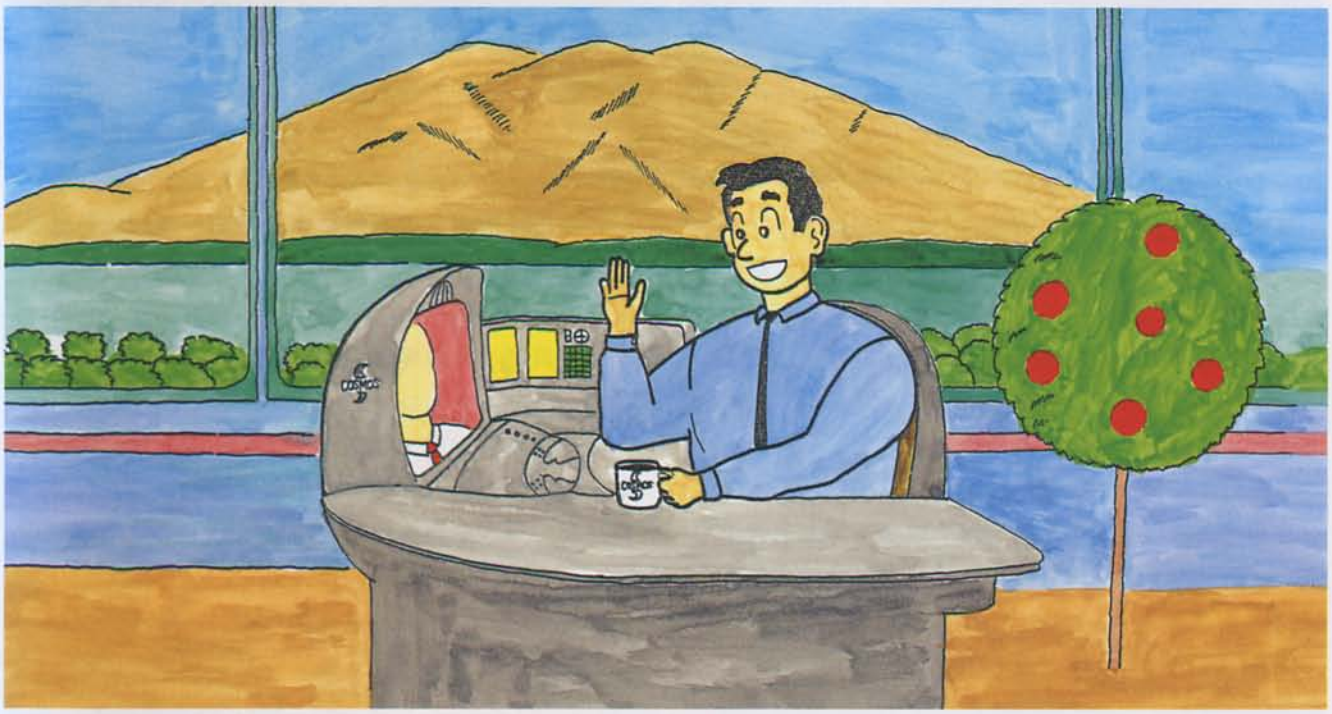
横山の勤めるフロンティア社は、社内の研究・企画部門と情報システムを祇園之洲や吹上リゾートオフィスタウンなど市内に2ケ所、市外に3ケ所あるサテライトオフィスへ移している。

社員の中にもこうしたところで働きたいという希望者が多くなってきている。

「こんなに自然を身近に感じられるところで仕事ができて幸せだなあ。」

と感じる毎日である。

オフィスに着くと、まず自分専用のパソコンにＩＤを入れる。これがタイムレコーダーの代わりになっている。画面を出すと谷山にある本社や提携企業からの連絡事項等が入っている。ＣＯＳＭＯＳ社から至急連絡のメッセージが入っており、さっそくテレビ電話に切りかえてみる。



「おはよう、翔。至急連絡のメッセージが入っていたけど、何だい？」

「朝からすまん。横山も来週ある高校の同窓会は行くんだろ？」

「もちろん、行くつもりだけど。何だよ、朝からそんな話か。」

「いや、実はうちとお前の会社の提携の件で至急詰めておかないといけない問題が起きたんだ。それで明日の午前中、うちで会議を設けたいんだけど横山と永田さん、都合つかないか。いつものテレビ会議では、ちょっと話せないんだ。」

「わかった。すぐ永田さんに聞いて連絡するよ。」

電話を切ると同時に、パソコンの画面に総務部からのお知らせが出てきた。『フロンティア社社員持株会の皆様への配当のお知らせ』である。フロンティア社は、5年前に鹿児島の地場企業としては10番目になる東京証券取引所への上場を果たしたが、上場する数年前から社員持株制度を実施しており、大半の社員が株主となっている。このためフロンティア社は社員の会社に対する愛着が大きいことで知られている。

SCENE 鹿児島1%クラブ 3
シーン3

横山が、いつものようにジョギングしようとマンションから外へ出ると、隣のマンションに住む上司の永田とばったり会った。

「おはよう、横山君。今日はボランティア活動日だったね。」

「はい、今日は私以外に会社から7名参加予定です。ホームヘルパーの応援要請が来ていて、それに行くことになっています。」

フロンティア社では、社長以下全員が2カ月に1回、交代でボランティア活動に参加していることで社会的に高い評価を受けている。

1980年代は豊かさの価値観に変化が生じはじめ、収益至上主義から軌道修正した日本企業の間に、※フィランソロピー、※メセナ活動がもてはやされた。90年前後はそのブームとも言える時代であったが、その後のバブル崩壊とともに下火となってしまった感がある。企業の広告・広報戦略としてフィランソロピーが取り入れられたが、その後、その企業の狙いにそぐわなくなったり、経営方針でやめてしまうケースが多かったからである。

しかし、鹿児島においては派手さはないが、横山の会社のようにボランティア活動を企業がサポートするという企業による地域貢献活動が根づいていた。それは企業が市民としての義務を果たすというコーポレートシティズンシップの本来の姿であった。

企業がボランティア運営財団“鹿児島1%クラブ”をつくり経常利益の1%にあたる資金や労力を提供するというシステムが確立され、地域のための活動に大きな力を発揮している。この活動に参加していないと、どんなに業績が良い企業であっても社会的評価は低いものとなってしまうため、県内の主要企業はもとより県外企業の支店、営業所単位での参加も増えているという。フロンティア社では、その中でも財団へスタッフを出向させるなど、その中心的な役割を担っている。

財団は各企業が拠出した基金の運用果実で運営されているが、その活動範囲は年々広がっており、現在では海外へのボランティアツアーを送りだすまでに成長した。

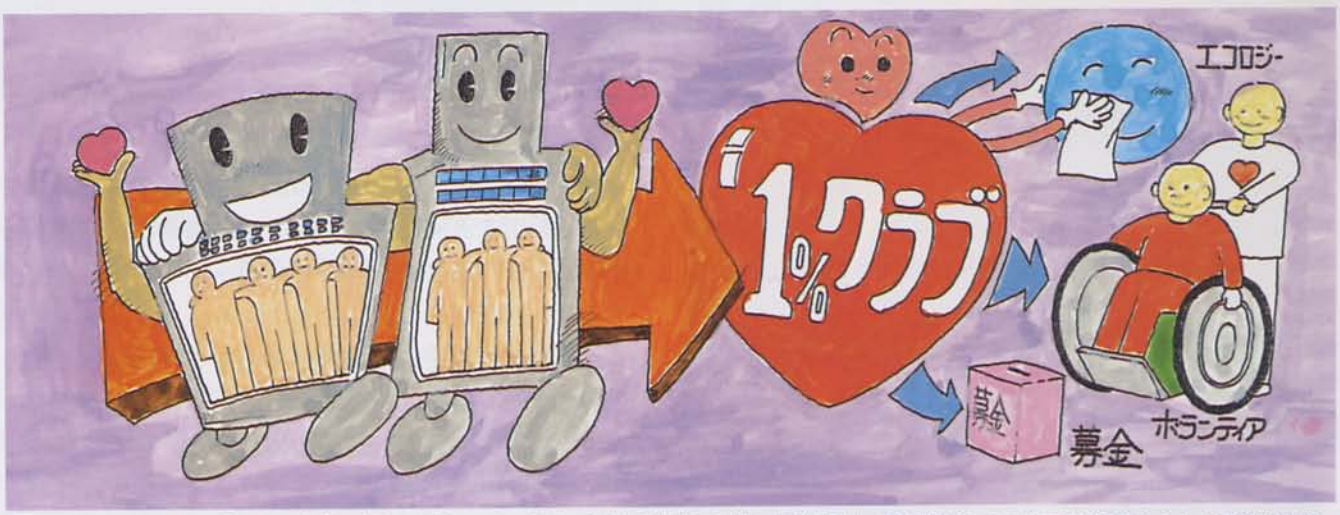
「そういえば、君は来月、ボランティアツアーだったな。たしかフィリピンだったよな」

「はい、会社からも推薦してもらってありがとうございました。」

「いやいや、君は一人一役運動の提唱者であるし、個人でのボランティア活動もよくやっているから、ツアーのリーダーとして指名されるのは当然だよ。」

横山は町内会でのボランティア仲間の活動も毎月1回参加するなど公私ともに充実した毎日を送っているが、それは情報化の進展により業務の効率化が進み、労働時間が週36時間と短縮され、また休日が増えたことで地域と関わる時間が増加したことに加え、何といっても社員個々人の地域活動も奨励している会社の方針が大きい。

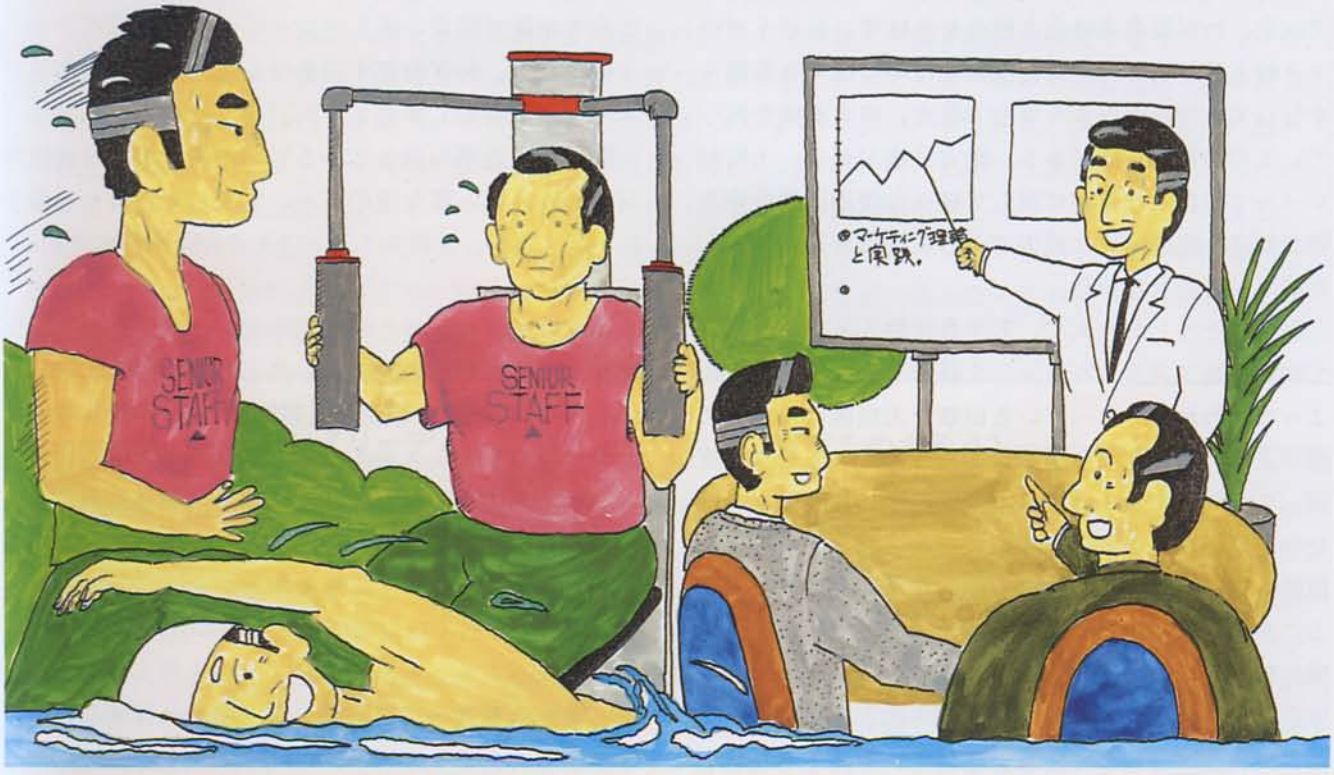
最近、長男の秀一郎がボランティア活動に関心を示しており、次回、一緒に連れていく約束をしたが、その日が待ち遠しい横山であった。



※フィランソロピー　「英語で慈善の意味。欧米では、個人や団体が教育、研究、医療福祉、環境保全のために奉仕活動をしたり寄付金を拠出する伝統があり、企業もこれに直接参加したり、財団等を通じて間接的に参加している。日本でも、そういう動きがあるが、規模的には、まだまだ少ないのが実情である。」

※メセナ　「フランス語で、文化・芸術活動に対する支援を意味する。企業は企業名を冠にした各種催しや寄付を行ったり基金を設定して財団を作り、そこを通じて支援を行う。」

SCENE 4 ㈱シニアスタッフ



高齢化先進県である鹿児島では、全国に先駆けて各事業所の高齢者雇用率の向上を推進する政策を展開していたが、このたび50歳に達した人を採用する㈱シニアスタッフという企業が生まれた。

65歳定年制の定着により、従業員に占める高齢者の割合は、年々高まってきている。それに反して企業の求人対象は概して若い労働者を求める傾向が強く、そこに労働需給のミスマッチ現象が生じている。これは職種によるミスマッチであるが、シニアスタッフ社はシニア世代が得意とする職種に特化し、業務請負業を主としたニュービジネスとして成功しつつある。

横山の家に遊びにきたボランティア仲間の中尾は、50歳で中途退職して一足早く、第2の人生をスタートすることにした。会社も第2の人生を支援するため、資格や技術の取得にも協力的でシニアスタッフ社の応募に際しては、積極的に応援してくれたという。

「中尾さんは、なぜシニアスタッフ社へ入社されたんですか？」

「会社が早くから社員に対して、高齢化に対する備えを指導してくれたから、人生設計を見直すことができたようなもんさ。企業年金制度が充実しているから、不安なく転職できるようなもので、退職してから改めて前の会社に対して感謝している次第さ。」

「たしか中尾さんは、以前はあまり健康が優れなかったと聞いていましたが……。」

「おかげさまですっかり健康を取り戻したよ。これも、成人病予防検診を毎年受けさせてもらって糖尿病を初期段階で治療できたのが大きかったなあ。スイミングクラブに通ってカロリー摂取オーバーを防ぐことができたのも会社の福利厚生のおかげだよ。」

「そうですか。私も人生設計をしっかりして健康で元気な人生を送れるようにしたいと思います。何か、アドバイスはありませんか。」

「アドバイスなんて柄じゃないが、一つだけ君に言っておくとすれば、仕事をいつまで続けることになるかはわからないが、いつリタイヤしてもできるような趣味と社会との関わりを最低一つずつは持つことかな。そうすれば、老け込むことはないよ。今、ホームヘルパーをしてボランティア活動に精出しているのは、老化防止と社会に対する恩返しの意味もあるんだ。」

「なるほど。ところで仕事の方はどうなんですか。」

「私の友人の岩切が、農業の企業化を図った㈱鹿児島アグリカルチャーを経営していることは君も知っているよな。彼が仕事に対するアドバイスをして欲しいと言ってきたので、その手伝いをすることにしたんだ。さっそく、明日、会いにいく予定だ。」

1990年代に様々な農産物が自由化されるようになって以来、わが国農業は生き残りをかけて、コストダウンと輸入農産物との差別化を図るための様々な取組みを行ってきた。このような中で現在、日本農業を担っているのが農業企業である。地方分権が進み、市町村レベルで意欲的な農家に対して様々な優遇措置を伴う補助制度を臨機応変に適用できるようになり、こうした試みが可能となった。

岩切もそうした一人で、若手農家数人と一緒になって㈱鹿児島アグリカルチャーを経営し、まず高齢化によって使われなくなっている田畑を大規模にわたって借り上げ、効率化を一層進めることでコストダウンを図っている。その一方では安全性の高い無農薬、有機肥料栽培法などによる作物の栽培を進めるとともに、温暖な気候を活かした栽培方法、農作物の特化を進めることで他の地域との差別化を図っている。現在、有機肥料栽培法が普及したことで有機肥料の需要が増え、家庭や飲食店の生ゴミのリサイクルによる有機肥料製造が新たな産業として注目を浴びている。このため各自治体は、悪臭もなく利益のでる有機肥料製造工場の誘致に懸命になっている。

岩切はこうした取り組みを通してMADE IN KAGOSHIMAの農産物、農業の銘柄品をつくり、市場を近畿・首都圏はもとよりアジアへも求めて行きたいと考えている。

中尾は㈱鹿児島アグリカルチャーの農場を訪ねた。

「どうだ、岩切。経営の方はうまくいっているか。ところで相談て何だい。」

「中尾さん、わざわざすいません。ちょっと向こうで休みながら話をしましょうか。」

鹿児島市近郊の高台にある岩切の農場からは錦江湾が望める。真っ青な空のもと、太陽の光が燦々と降り注いでくるが、木陰にくるとさわやかな風が吹き抜け、心地よい。

「経営の方はおかげさまで順調にいっています。ただ、農業にとって最大の課題は自然との戦いです。それで中尾さんの技術で、精密な長期気象情報システムを使った農業経営管理システムを作ってもらえないかと考えているんです。これができれば、キメ細かい農作物管理ができ、全国、アジア市場の動向を踏まえた企業経営がやれそうな気がするんです。」

「わかった。ＫＩＵの地球環境学部に友人がいるから、相談してみよう。それとアジア市場も考えているのなら、おれの友人の馬場が陸・空・海の一体的な運輸を手がけるアジアトランスポート㈱を経営しているから、今度、紹介しよう。」

農業企業が利益率の高い、世界を視野に入れた企業となったことで、農業に取り組む新卒者や転職者も年々増え、後継者問題も解決された。また鹿児島は、輸入自由化と消費者ニーズにいち早く対応したことでわが国農業をリードしている状況にある。



■実現に向けて

【鹿児島型新産業の育成をめざそう】

鹿児島は宇宙と海洋という21世紀のフロンティアともいえる分野において他の地域より恵まれた環境にある。２つのロケット打上げ基地、鹿大水産学部・工学部海洋開発工学科など宇宙と海洋を研究するセクションを持ち、数多くの人材を輩出、保有していることは今後の産業育成にとって大きな強みであると思う。平成５年度の宇宙開発予算は約２千億円、宇宙産業は約３千億円の広がりを持つ。また現在、３兆円の九州の海洋関連産業は2010年には６～７兆円に膨らむという調査もある。21世紀に向けた新たな産業展開を進めるためには鹿児島の持つ優位性を生かしつつ、これまでにない産業育成を図っていくことが大切であると考える。私たちはそのためのＡＰとして、アメリカ：カリフォルニア州にあるシリコンバレーのように大学を軸として産官学一体となったまちづくり、例えば宇宙と海洋を軸として産官学一体となったまちづくりを進めるなかで鹿児島型新産業を積極的に育成していくべきであると考える。

【リーディング産業として農業の育成をめざそう】

近年の食品の安全性に対する消費者のニーズから、自然栽培や無農薬有機栽培で生産された農作物に注目が集まりつつある。一方、企業も産業としての農業の将来に注目し、農業部門を充実させつつある。このような中にあって鹿児島の農業生産額は豚(全国１位)、肉用牛・ブロイラー・鶏卵(全国２位)、また畑耕作地(全国２位)など全国でもトップクラスの農業県でありながら、一軒あたりの規模が全国に比較して小さいというハンディがある。鹿児島の農業にとって今後はこれまで以上にコストダウンと差別化を図ることが大切になってくると考える。私たちはそのためのＡＰとして、現在、全国各地で実施されつつある農業の企業化等を展開することによって農業を鹿児島のリーディング産業に育成していくべきであると考える。そのためには、まず消費者である我々自身が鹿児島の農業を理解することから始めなければならないと思う。

【公開性の高い企業をめざそう】

鹿児島経済の安定成長と活性化を実現していくためには、地域経済の基盤である地場中小企業がまず経営基盤の安定化を図り、持ち前の機動性・独自性を生かして新たな分野を切り拓いていくことが重要である。私たちはそのためのＡＰとして、現在の情報化、技術革新など経済環境が大きく変化するなかで資金調達を安定化、円滑化するために、地場企業の株式公開を進めることも重要な意味があると考える。低コストの資金調達、財務体質の強化を図り、次の投資を促進し、地域で生まれた付加価値が地域社会の中に再投資されることによって地域の活性化につながる。また社会的信用度や知名度の向上に伴い、地元人材の活躍の場ができ、鹿児島からの人材流出をくい止め、大都会からの人材の流入も可能になると考える。

【社会に貢献する企業をめざそう】

企業にとって、本来の経済活動と合わせて地域貢献・社会貢献も重要な使命である。それがコーポレートシティズンシップの根幹である。各企業が独自に貢献活動をするのを否定はしないが、より多くの企業が参加し、一つにまとまって大きな力を発揮することができる仕組みが有効である。その方が息の長い活動にもつながるし、企業側の思惑で左右されることを防ぐことができる。同時に個人にとっても、企業人として働くのと同様、地域人として活動することも重要であると思う。私たちはそのためのＡＰとして、鹿児島に独自のボランティア運営団体「鹿児島１％クラブ」を設立し、鹿児島の企業の地道な社会貢献活動を確立させるべきであると考える。また社員一人ひとりを大切にするとともに、社員の地域での活動を支援するため、町内会、ＰＴＡなど地域団体で役を引き受けることを奨励する「一人一役運動」を積極的に展開すべきであると考える。

① 宇宙プロジェクトの内容

分類	プロジェクト	組織体制	内容
航空宇宙利用施設	九州地球観測情報センター	第3セクター	①リモートセンシングデータの受信、並びに処理・加工 ②データの配付 ③関連ソフトウェアの開発 ④アジア太平洋地域の研究者との共同研究、並びに研修生受入れ
	宇宙太陽光発電システムの海上受電施設	新設の特殊法人	①太陽光発電衛星からのマイクロ波によるエネルギー電送の受電
	汎用飛行試験場	国立研究所 (運用については第3セクター)	①新型航空機の飛行実験の実施 ②新型管制試験、離着陸性能試験、新型機器の開発試験等の各種試験の実施 ③実験機や大気観測等の試験の実施
	宇宙往還機用飛行場	国の機関又は関係諸団体	①HOPE、スペースプレーン等の着陸場 (将来的には周辺部に試験研究設備、機関の設置)
航空宇宙関連研究機関	月・惑星資源開発研究所	国立研究所又は第3セクター	①月資源の採掘・精製機器の研究開発 ②レゴリスシミュラントの研究開発 ③月面環境における探査開発機器の運用に伴う各種実験 ④宇宙活動関連の基盤技術の研究開発
	有人宇宙技術研究所	国立研究所又は第3セクター	①物理化学的手法による閉鎖生態環境技術の研究開発 ②閉鎖生態系実験施設による有人宇宙活動支援技術の研究開発
	微生物利用による有人宇宙技術研究所	国立研究所又は第3セクター	①微生物(バイオ)技術の利用による閉鎖生態環境技術の研究開発 ②微生物利用による有人宇宙活動支援技術の研究開発 ③宇宙検疫のガイドラインの策定
	国際地球外建築研究所	第3セクター	①地球外建築の概念の体系化 ②宇宙における建築構造物の概念研究 ③九州における宇宙文化の情報発信
航空宇宙産業振興支援・推進	航空宇宙材料加工技術開発センター	第3セクター	①航空宇宙で今後の開発利用が期待される材料の加工技術の研究開発 ②先端加工技術の地域への積極的な移転
	先端技術情報移転センター	第3セクター	①航空宇宙関連情報の収集・発信 ②地域への航空宇宙関連技術の移転
	アジア航空機整備学校	第3セクター	①アジア太平洋地域の航空機整備士の育成

出所：九経連　月報　1994年7月号

② 鹿児島県農業の地位

区分	単位	鹿児島	全国	九州	順位 全国	順位 九州	備考
耕地面積	100ha	1,380	51,240	6,452	11	1	1993年「面積統計調査」
畑耕地	〃	929	23,430	2,826	2	1	〃
1戸当たり耕地面積	a	1.13	1.39	1.17	16	4	耕地面積／総農家数
農業粗生産額	億円	4,558	111,382	20,121	4	1	1992年「生産農業所得統計」
畜産計	〃	2,276	29,373	6,927	2	1	〃
肉用牛	〃	605	5,347	1,850	2	1	〃
豚	〃	733	6,584	1,771	1	1	〃
鶏卵	〃	196	4,016	690	2	1	〃
ブロイラー	〃	535	3,244	1,419	2	2	〃

出所：鹿児島県農業の動向（九州農政局鹿児島統計情報事務所）　1994年3月発行

③ 株式公開基準

項目	店頭公開基準	地域産業育成銘柄
発行株式数	200万株以上（店頭公開時） 100万株以上（直前期平均発行済株式数）	200万株以上（上場時） 100万株以上（直前期末）
少数特定者持株比率	無し	80%以下　（上場時）
株主数	200人以上	300人以上
設立後経過年数	無し	3年以上
純資産	2億円以上	3億円以上
利益の額	1株当り10円以上（税引前） 公開時公募を行なう場合 1株当り10円以上（税引後）	税込利益 最近1年5000万円以上 1株当り20円以上（直前期）
一部競争入札制度	公開株式の50%以上 最低25万株	公開株式の50%以上 最低40万株

「地域産業育成部銘柄」制度
地域経済の振興、活性化に資するために、地域内の中堅、中小企業のうち一定水準を満たしかつ育成することが必要と認められる企業に対して上場基準を緩和する制度。

④ 鹿児島大学の県内への就職状況

	法文	教育	理	工	農	水産	合計
1991年	40 %	73 %	29 %	11 %	33 %	24 %	38 %
1992年	47 %	81 %	53 %	15 %	33 %	31 %	46 %

出所：1993年度鹿児島大学学生部厚生課就職関係資料

高校生の県内への就職状況

	男子	女子	合計
1991年	35 %	53 %	44 %
1992年	36 %	51 %	44 %

出所：1993年度鹿児島県統計年鑑

⑤ 「1%クラブ」とは

（経団連の1%クラブの例

経常利益の1%相当額（法人会員）、可処分所得の1%相当額（個人会員）を社会貢献活動のために拠出することに努める企業および個人を支援する。さらに、広く国民各層において寄付やボランティア活動が活発化するよう機運を醸成することを目的とする。

「鹿児島1%クラブ」が設立され、仮に平成5年の申告所得額が4,000万円以上の法人がすべて加入したとすれば、12億円弱の資金が拠出されることになる。

1993年　県内法人所得状況

公示対象法人（申告所得4,000万円以上）	所得額合計
713社	1,194億円

1,194億円×1%=11億94百万円

（注）県内企業の経常利益を把握できないため、申告所得額で試算した。

2010年物語

第4章

▶ 高齢者にとっての2010年 ◀

安らぐ

SCENE 吹上リゾートオフィスタウン 1
シーン1



長年、コンピュータ関連企業のビジネスマンとして世界を舞台に活躍してきた田原さんも、いよいよ来年、65歳の定年を迎える。

定年後は、これまでの知識と経験を生かし、ソフト関係の企業を起こし、若い人に仕事を任せながら、自らとしては地域活動やボランティア活動にも積極的に取り組みたいと考えている。またこれまで大都市でのマンション生活が多かったこと、二人の子供も外国人と結婚し、海外に住んでいることもあり、できれば地方で地域の人々と気軽にコミュニケーションをとれるような所に住みたいと思っている。

今日も夫婦でＣＡＴＶを利用しながら、全国の情報を検索している。

田原さんが「海」「温暖」「温泉」「リゾート」といったキーワードを入力すると鹿児島の吹上リゾートオフィスタウンの名前が出てきた。

「孝子、この吹上リゾートオフィスタウンなんか、どうだろう。」

「いいんじゃない、私の福岡の実家にも新幹線で１時間ちょっとで行けるし、何と言っても温泉が近くにあるのが魅力的だわ。」

「じゃあ、今度の週末、ちょっと鹿児島へ行ってみようか。」

◇　　◇　　◇

田原さん夫婦は空路で鹿児島へ入り、ショウセイタクシーに乗り、吹上リゾートオフィスタウンへやってきた。タクシーの運転手さんの応対も大変温かく、田原さん夫婦は、それだけで鹿児島のファンになってしまった。

吹上リゾートオフィスタウンは、当初、デザイナー、弁護士、コンサルタントといった業種の人たちが多かったが、その後、研究・企画部門を移転させて来た企業も数社ある。また日本三大砂丘の一つに数えられる吹上浜、美しい松林、目の前に広がる東シナ海など豊かな自然環境の中にあることから、定年後の人生を送る高齢者向けの専用マンション、一戸建て住宅をはじめ高齢者の自立を手助けする様々な施設やシステムが完備され、高齢者も数多く住むなど世代を超えて豊かなクオリティライフを過ごせるリゾートとオフィスが一体となった街として開発が進んでいる。

田原さん夫婦はタウンインフォメーションセンターに行き、自分の計画について相談していると、昨年、同じように東京から吹上へやってきた久永さんに会うことを勧められる。

「久永さん、どうですか、ここの住みごこちは？」

「もともと僕は鹿児島の出身でしたので、ここに決めたんですが……。」

久永さんは、海や温泉をはじめ自然環境の素晴らしいこと、企業経営の面においても若者の採用もしやすく、仕事ぶりも一生懸命なことなど、熱心に話してくれた。

田原さん夫婦は吹上リゾートオフィスタウンの良さはもちろんのこと、初対面なのにとても温かく接してくれる人々に感激し、ここに住むことを決めて東京へ帰って行った。

SCENE シルバーベンチャー企業 2
シーン2

久永さんは、鹿児島出身で東京の大手企業の特許部門で活躍していたが、１年前に定年退職し、ふるさと鹿児島へ帰ってきた。現在は特許に関するコンサルティングを行うシルバーベンチャー企業のコンサルティングヒサナガを吹上リゾートオフィスタウンに設立し、マルチメディアを利用してクライアントへのコンサルタント業務を行っている。この業務は相手との信頼関係が重要なポイントとなること、そのためには高度の知識と豊かな経験が必要とされることから、コンサルティングヒサナガには高齢の社員が数多く勤務し、生き生きと活躍している。

すでに日本中のすべてのまちに光ファイバー通信網が張り巡らされ、自宅から世界へ向けての情報発信も可能な時代となっており、新たなビジネスも次々と生まれている。またコンピュータと通信技術の発達により、時間的・距離的な制約を超えて仕事をこなすことも可能になっている。

久永さんと同じ異業種交流会に入っている米森さんもその一人で、これまで家庭内看護ロボットの試作など福祉関連機器の開発を行う企業の㈱メディカルサイボーグを経営している。

「久永さん、先日はありがとうございました。ご紹介



いただいた初田さんとの話が順調に進み、今度、超音波技術を応用した様々な試作品を企業へ売り込む研究開発型のベンチャー企業を設立することになり、今、その準備でとても忙しいんですよ。」

「それは良かったですね。それで㈱メディカルサイボーグはうまくいっていますか。」

「おかげさまで何とかやっています。設立時メンバーの大黒さんが、まだまだ元気なので実質的な経営は彼に任せようかなとも考えているんです。もっとも彼も近々、何人かの友人と今まで蓄積してきた技術ノウハウを持ち寄って新しい企業を起こそうと、今、一生懸命走り回っていますが…。」

2010年の高齢者人口は約2700万人をこえ、新しい感覚で企業経営に取り組む高齢者も数多くいる。また若者の減少により、高齢者は貴重な労働力として期待されており、企業の生き残りにとって、多彩な経験と能力をもつ高齢者をいかに活用するかということが大切になってきている。

SCENE クラフトワークタウン 3
シーン3

県庁の跡地に“クラフトワークタウン”が整備されて10年余り経過した。この“クラフトワークタウン”は、長年にわたって培われてきた伝統工芸や特産品など鹿児島が全国に誇れる地場産業を集積した集客力のあるテーマパークとして注目を浴びている。

同時に、高齢者の知恵やノウハウを活用できる場、昔からの伝統的な手仕事を体験できる場、高齢者と子供のふれあいの場として世代間の交流を図れる施設となっている。

コンサルティングヒサナガに勤務する山元さん。若い頃は金融関係の会社に勤めながら、本を出版したり、各地で講演活動を行うなどマルチビジネスマンとして活躍していた。退職後は陶芸をやってみたいと思い、会社の生涯学習制度を利用してクラフトワークタウンの中にある“マイスターセンター”で5年間じっくりと学んできた。現在はコンサルティングヒサナガに勤務のかたわら、週末は吹上リゾートオフィスタウンの近くにある窯で陶芸に取り組む毎日である。

「山元さん、今度、陶芸に取り組んでいる人々が集まって合同作品展を開こうという話があるんだけれど、よかったら出品してみませんか。」

古い友人である“さつま工芸館”の吉永館長から、山元さんの自宅に電話がかかってきた。

「やあ、吉永さん、先日はどうも。しかし、私は始めてまだそんなに期間が経っていないし、とても“さつま工芸館”の企画展に出品できるような作品はまだまだ無理ですよ。」



「山元さんなら大丈夫ですよ。」

“クラフトワークタウン”には、この他、畜産県鹿児島の高品質の材料を活用した手作りハムやソーセージの製造、機織り、アンティーク家具の製造など手作り製品の良さを将来に伝える製作工房としての機能が完備し、高齢者はもとより、最近では伝統工芸の素晴らしさに感銘を受けた多くの若者がセンターで学んでいる。

山元さんは企画展に出品する作品を創り上げたら、今度はマイスターセンター時代の友人たちと一緒に子供たちや若い世代に鹿児島の持つ歴史や伝統的な文化を伝える活動をしたいと計画している。手始めに鹿児島弁や薩摩狂句を学ぶ薩摩塾を設立したいと考えている。

まさに昭和青年（高齢者）のイメージは、あらゆるものに興味を持ち、積極的に取り組んでいくマルチ人間である。

SCENE 4 皇徳院ふれあい病院

シーン4

“皇徳院ふれあい病院”には、10年ほど前、他の病院に先駆けて内科や小児科といった通常の科の他に高齢者科が設けられた。この病院では高齢者に対する総合的な診察を行うとともに、温泉利用の療法、鍼・灸・漢方などの東洋医学療法、さらにはボランティアによるデイケアサービスも行うなど、特色ある先進的な医療機関として地域医療発展のために大きく貢献してきている。これがきっかけで現在では各地域に同様の病院が設けられている。

林さんがこの団地に住んだのも皇徳院ふれあい病院に高齢者科が設けられたというニュースを見て関心を持ったことがきっかけだった。いろいろ話を聞いてみると、病院以外にも地域サポートシステムがしっかりしていることなど、高齢者にとっても住みやすい団地と思い、高齢者用マンションを購入。すでに生活を始めて９年が経過した。

今年75歳になる林さんは、昨年、ご主人を亡くし、現在一人暮らし。高血圧による心臓病を持病に持っているが、月１回ふれあい病院を訪れる他、病院とマンションの間にテレビ電話が設置され、病院へ行かなくても様々なアドバイスを気軽に受けられることで安心して生活している。病院からは毎日午前中に林さんの自宅へ電話がかかってくる。

「林さん、調子はどうですか。」

「天野先生、おはようございます。ちょっと風邪気味なんです。」

「そうですね、少し、顔色が悪いようですね。温泉にでも入って２、３日ゆっくり休んでくださいね。今、栄養士の中園さんに代わりますので、栄養のバランスなども考えて食事をとってください。」

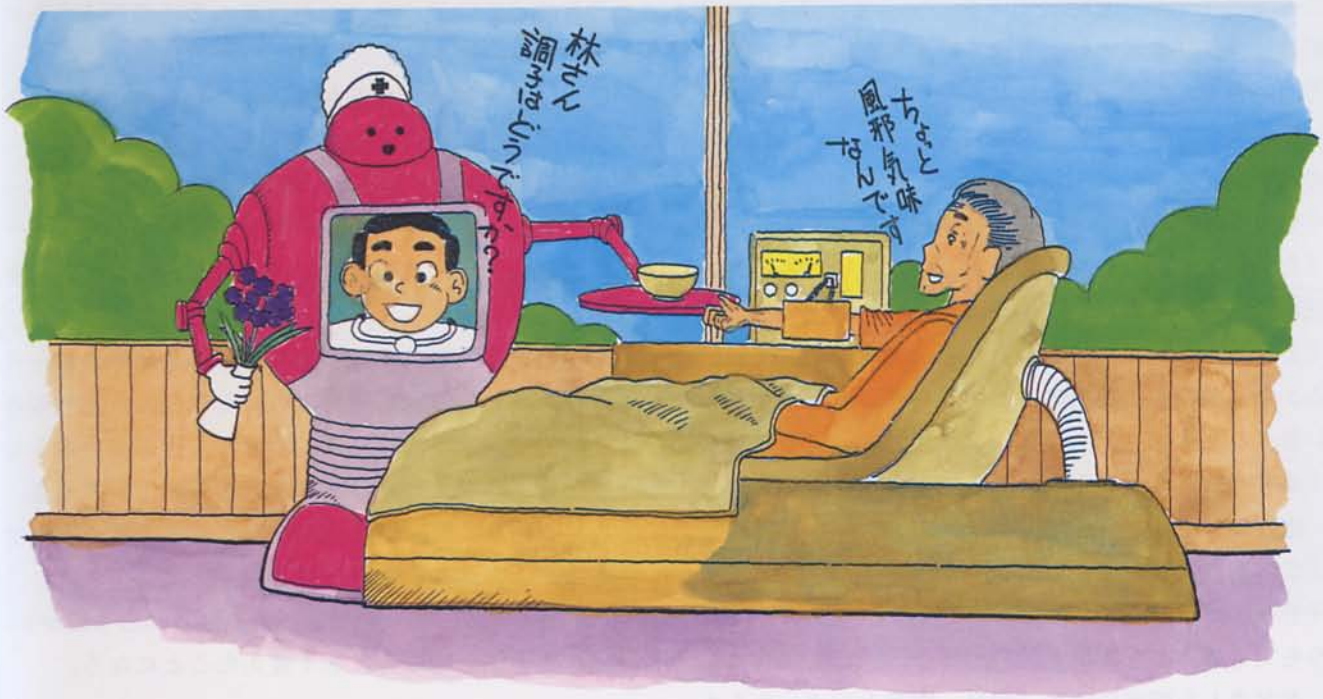
「今日はコミュニティログハウスで近所の子供たちとの食事会があります。それを終えたら、温泉につれて行ってもらうことになっています。」

また、この病院では林さんのような患者に対してテレビ電話をレンタルしたり、寝たきりのお年寄りが介護者の力を借りずに自分で操作できる介護ロボットや多機能ベッドなど様々な医療福祉機器を貸し出している。

しかしながら、この病院のスタッフだけでは、介護が必要なすべてのお年寄りの世話をすることは困難であり、必要に応じて地域サポートセンターにスタッフが出向き、応援を求めている。

先日もデイサービスのボランティアをお願いしたところ、皇徳院ニュータウンに住む森さんから、自分が勤めるフロンティア社のボランティアグループの中にホームヘルパーの資格を持つ者がいるので応援に行かせる旨の連絡がすぐに入ったことがあった。

この皇徳院ニュータウンでは、弱い立場のお年寄りを守るためにみんなが率先して手伝おうという機運が地域に満ち溢れている。



SCENE もくれんの並木道 5
シーン5



皇徳院ニュータウンに住む未来ちゃんの家の隣には、数年前に、会社を定年退職し、悠々自適の生活を送る坂元さん夫婦が住んでいる。坂元さん夫婦は、地域でも多趣味の夫婦として知られているが、特にご主人は園芸に造詣が深く、近所の人々の相談にも気軽に応じている。自宅にも様々な花木が植えられ、1年中色とりどりの花々が咲き誇っている。毎年3月頃になると庭に植えてある数本のもくれんの木に白い花が咲き、芳しい香りが家の前の通りに漂ってくる。

昨年の3月のある日、未来ちゃんは学校帰りに自宅の前で坂元さんに会った。

「未来ちゃん、お帰り。今日は早かったね。」

「ただいま。おじいちゃんのおうちにはいつも綺麗な花が咲いているけど、この花は何という花なの？」

「もくれんの花だよ。よかったら、お花を切ってあげるから、おうちで花瓶にさしてごらん。部屋の中がいい香りになるよ。」

「ありがとう。」

夜、お父さんが帰ってきて未来ちゃんに尋ねた。

「このお花、坂元さんにもらったの？」

「そう、いい香りがするでしょう。ねえ、おとうさん、うちでも植えようよ。」

お父さんも即座にOK。翌日、園芸センターからもくれんの木を買ってきて未来ちゃんと一緒に植えていると、近くに住む前田さんが通りかかった。

「未来ちゃん、もくれんの木を植えてもらっているの？」

「そうなの。おじいちゃんのうちにも植えてくれれば、来年の今頃は未来のおうちの周りは、もくれんの花で一杯になってうれしいのになあ。」

「それは、いいアイデアだね。さっそく他の人たちにも相談してみよう。」

この話が口コミでひろがり、未来ちゃんの家のある通りの家々でもくれんの木を植えようということになった。またこの話がマスコミに取り上げられたことがきっかけとなり、皇徳院ニュータウンのサポーターズクラブの総会で、団地内の家々に各通りごとに同じ花木を植えることが決まった。

その結果、今年は未来ちゃんの家のある通りで一斉に白いもくれんの花が咲いたのはもちろん、団地の各通りに沿った家々の庭には、地域の人々が自分たちで決めた花木が植えられ、それぞれもくれんの並木道、くちなし通り、あじさいロードなど四季ごとに様々な花が咲き、心地よい香りが漂う通りとなっている。

未来ちゃんの何気ない一言が、高齢者の心を動かし、自分たちの住む地域を大きく変えたことになる。

■実現に向けて

【いつまでも元気で働けるまちづくりを推進しよう】

総理府の調査によると「現在の仕事あるいはそれに関連する仕事を続けたい」という男性は、60歳以上で62.3%、70歳以上で60.6%と高い数字を示している。高齢者の就労については所得保障と生きがい対策という視点から考えることが大切であるが、日本人の勤勉性やこれまでの生活習慣から就労希望を持つというような側面もあり、広い意味で就労と生きがいが結びついている。今後、年金制度の充実等が進み、また多様な価値観を持つ現代の若者が高齢者になる頃には、経済的理由、勤勉性からくる就労は次第に少なくなるとも考えられるが、多様な生きがいとしての就労は今後も必要であると考える。私たちはそのためのＡＰとして、高齢者の持つ経験、能力を生かせる多様な就労機会の創出、例えばシルバーベンチャー企業の育成等を積極的に展開していくべきであると考える。

【生きがいのある人生を送れるまちづくりを推進しよう】

高齢化の進展に伴い、就労以外に生きがいを求め、趣味や余暇活動さらには社会活動への参加を志向する、いわゆるニュー・オールドといわれる高齢者が増加しつつあり、この傾向はますます強くなると予想される。現在、鹿児島市においてもふれあいスポーツランド・生涯学習プラザ、県においても県下全域をキャンパスとする県民大学などが計画されているが、高齢者が気軽に文化・スポーツ活動、社会活動に参加でき、また子供や若者ともふれあえる機会と場の充実が、今後ますます求められて来ると思う。私たちはそのためのＡＰとして、高齢者活用・伝統産業体験・世代間交流の場としてのクラフトワークタウン、マイスターセンター等の整備を進め、高齢者が社会との関わり合いを持ち、生きがいを持って人生を送れるまちづくりを積極的に推進すべきであると考える。

【健康で安心して生活できるまちづくりを推進しよう】

鹿児島地域経済研究所の調査で高齢者にとって望ましい生活環境として「医療体制の充実」「福祉サービスの充実」が上位を占めていることでもわかるように、高齢者にとって最も基本的なことは健康に不安がないこと、仮に健康を害しても生活の安心が保障されていることである。今後高齢化社会がさらに進展していくことを考えると、高齢者が日常生活を送る地域の中に保健医療・福祉施設が整備されており、安心して相談・診察を受けられることが重要であると考える。私たちはそのためのＡＰとして、高齢者の好む温泉を活用した施設、高齢者を総合的に診察する部門のある医療施設、福祉サービスを気軽に受けられる施設・システムの整備、福祉に携わる人材の確保を図り、高齢者が健康で安心して生活できるまちづくりを積極的に推進すべきであると考える。

【連帯感があり心豊かに暮らせるまちづくりを推進しよう】

高齢者の多くは豊かな自然の中で落ち着いて暮らせること、知り合いの多い所で安心して楽しく暮らせることを望んでいると思う。社会環境の変化により人間関係も次第に希薄になりつつあるが、同じ地域に住むもの同士、老若男女が思いやりを大切にしながら、お互いに助け合い、支えあう地域社会をつくりあげていくことが重要であると考える。私たちはそのためのＡＰとして、吹上リゾートオフィスタウンのように豊かな自然環境と温かい人間関係の中で暮らせるまちづくり、皇徳院ニュータウンのように地域の中でお互いに助け合い、支えあいながら暮らせるまちづくりを積極的に推進すべきであると考える。

① 日本の将来推計人口

・高齢者人口（65歳以上）

	1990年	2010年
総人口	12,361 万人	13,040 万人
65歳以上	1,489 万人（12%）	2,775 万人(21.3%)

・年齢区分別人口比

	0～19歳	20～64歳	65歳以上
1990年	26 :	62 :	12
2010年	21 :	58 :	21

出所：厚生省人口問題研究所「日本の将来推計人口」（1992年9月）

② 鹿児島県の将来推計人口

		1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
人口 (A)（千人）		1,819	1,798	1,759	1,717	1,677	1,636
幼年人口(B)	0～14歳	393	358	315	280	270	277
生産年齢人口 (C)	15～64歳	1,168	1,142	1,096	1,046	997	950
老齢人口(D)	65歳以上	258	299	350	392	409	409
後期老齢人口 (E)	75歳以上	100	122	142	171	204	227
老齢人口比率（D／A）（%）		14.2	16.6	19.9	22.8	24.4	25.0
生産年齢人口倍率（C／D）（倍）		4.5	3.8	3.1	2.7	2.4	2.3
従属人口比率（(B＋D)／A）（%）		35.8	36.5	37.8	39.1	40.5	41.9
高齢者親族のいる一般世帯計（千世帯）		190	213	241	268	278	280
高齢夫婦世帯 (A)		55	67	83	97	102	102
高齢単身世帯 (B)		53	63	74	86	96	106
小計（A＋B）		108	130	157	183	198	208
同居世帯		82	83	84	85	80	72
高齢者親族のいる一般世帯数に占める同居世帯数の割合（%）		43.2	39.0	34.9	31.7	28.8	25.7

（注）世帯推計は、1985年～1990年の年齢階層別有配偶者変化率を今後も変わらないと仮定し、65歳以上の男女別有配偶者率を推定し、無配偶者の単身世帯出現率、有配偶者の高齢夫婦出現率の増加傾向が今後も一定と仮定して、世帯構造を試算した。

出所：都道府県別将来推計人口

③ 仕事に対する希望

（単位：%）

	総数	性 男性	性 女性	性・年齢 男性 30～39	男性 40～49	男性 50～59	男性 60～69	男性 70以上	女性 30～39	女性 40～49	女性 50～59	女性 60～69	女性 70以上
現在の仕事あるいはそれに関連する仕事を続けたい	49.2	57.4	41.5	43.0	56.9	63.6	62.3	60.6	33.0	47.3	44.7	40.6	42.4
時間的、体力的にあまり負担のかからない仕事をしたい	46.9	39.6	53.7	32.2	37.3	41.3	46.0	43.3	51.6	49.1	56.8	60.3	57.6
自分の趣味や知識を活かせる仕事をしたい	42.9	38.5	47.0	49.6	41.0	35.1	31.7	30.8	61.8	47.3	40.6	36.6	24.2
収入のいい仕事をしたい	8.6	8.8	8.5	13.7	8.4	8.8	7.2	1.9	10.7	10.7	7.5	4.0	－
現在の仕事と全く違った新しい仕事に積極的に取り組みたい	6.8	9.5	4.4	13.3	13.0	9.0	3.8	3.8	5.0	4.6	4.3	3.6	3.0
一人又は新しい集団で、何か事業を始めたい	4.8	6.3	3.5	13.7	7.2	2.6	4.9	1.9	5.7	4.1	1.7	1.3	1.5
その他	0.2	0.4	0.1	－	0.3	0.5	0.4	1.9	－	－	－	0.4	－
わからない	0.9	0.8	0.9	1.1	－	0.8	1.5	1.0	0.5	0.7	0.6	0.9	7.6

出所：総理府広報室「高齢期のライフスタイルに関する世論調査」（1989年）

④－1 高齢期の生活環境（N＝661）

（単位：%）

	全体	性別 男性	性別 女性	年齢別 20～34	年齢別 35～49	年齢別 50～64
医療体制が充実	56.0	56.0	56.2	43.4	56.5	61.6
福祉サービスが充実	51.4	48.4	53.6	52.9	53.7	47.9
自然が豊か	49.8	56.8	45.1	50.0	49.6	51.3
交通の便がよい	37.2	33.0	40.2	28.7	37.8	41.1
気がねなく生きれる	29.0	30.0	28.4	32.4	28.5	28.5
犯罪がない	21.6	19.0	23.5	30.9	20.3	17.9
人情味が厚い	18.3	19.4	17.5	16.9	16.7	19.0
生活必需品の価格が安い	16.0	14.3	17.3	19.9	16.3	14.4
多様な消費生活	7.7	9.2	6.7	9.6	8.9	6.1
住宅、地価が安い	5.3	6.2	4.6	9.6	6.9	1.9

④－2 高齢化社会の問題（N＝646）

（単位：%）

	全体	性別 男性	性別 女性	年齢別 20～34	年齢別 35～49	年齢別 50～64
年金の給付と負担のバランス	78.0	82.1	75.1	78.6	85.4	32.2
寝たきり・痴呆の介護	63.3	56.0	68.4	69.9	66.7	56.7
医療費や医療保険制度	54.3	56.0	53.1	50.0	54.9	55.2
医療・福祉施設の確保	50.8	43.2	56.2	55.1	56.1	44.4
雇用の確保	35.4	42.1	30.6	33.1	40.2	32.2
生活しやすい環境	31.1	33.3	29.5	29.4	27.2	35.6
生きがい	21.5	21.2	21.8	17.6	19.5	24.9
健康管理	16.8	15.8	17.6	11.8	10.2	23.8
家庭や地域社会の人間関係	16.5	17.6	15.8	22.8	15.9	14.6
医療・福祉水準の地域格差	10.2	12.1	8.8	13.2	7.7	10.7
世代間の考え方の相違	8.8	8.4	9.1	8.1	7.3	10.7
その他	0.2	0.0	0.3	0.7	0.0	0.0
特に問題なし	0.2	0.0	0.3	0.0	0.0	0.4

④－3 不安の中身（N＝533）

（単位：%）

	全体	性別 男性	性別 女性	年齢別 20～34	年齢別 35～49	年齢別 50～64
寝たきりや痴呆になったときのこと	62.3	60.7	63.4	60.8	61.1	64.5
経済的なこと	45.4	42.0	47.8	56.9	52.4	34.1
自分の健康	35.5	36.5	34.7	13.7	37.5	44.5
配偶者に先立たれた後の生活	28.3	31.1	26.4	29.4	25.5	31.3
孤独	10.3	8.7	11.5	18.6	6.7	8.1
趣味・仕事	6.6	9.6	4.5	9.8	7.2	3.8
友人・仲間とのつきあい	1.5	0.9	1.9	2.9	1.0	1.4
近所づきあい	1.3	1.4	1.3	1.0	1.4	1.4
その他	0.9	0.5	1.3	2.9	0.5	0.5

④－1．④－2．④－3 出所：鹿児島地域経済研究所調べ

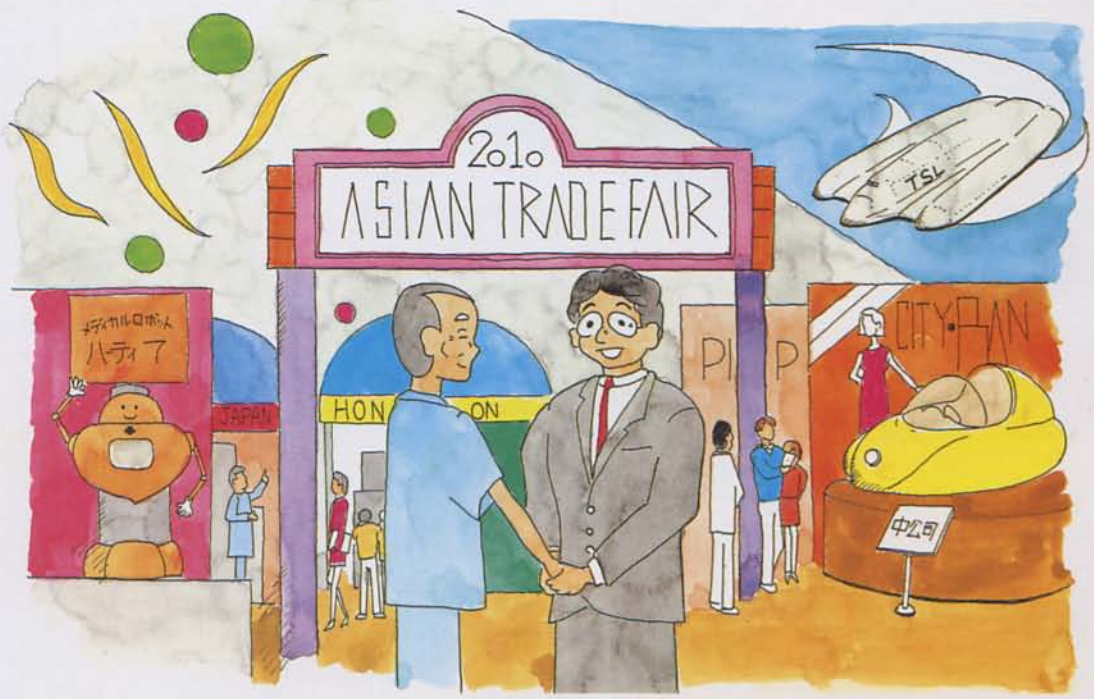
2010年物語

第5章

▶ 外国人にとっての2010年 ◀

交わる

SCENE アジアトレードフェア 1
シーン1



1972年の日中国交正常化以来、鹿児島にとって中国本土との定期航空路線の開設は長年の念願であったが、県内の民間団体や行政の熱心な誘致活動、さらには※ＣＩＱ機能や運用時間の延長など空港機能の充実・強化が図られたことで、昨年、ついに鹿児島～上海線が開通した。

この背景には中国の海外渡航の自由化、所得水準の向上による旅行者数の大幅な増加など観光面の要因に加え、鹿児島の地場企業の中国進出に伴う経済交流の活発化などがある。特に中国との商取引はかつては農水産物、食品加工など食品関連が大きなウェイトを占めていたが、現在では地場企業の独自の技術・製品開発による取引も活発化するなど、幅広いものになってきていることが大きい。

ところでこの定期路線開設を記念するとともに、このたび鹿児島港中央港区の第一人工島に完成した“鹿児島ハーバーメッセ”のオープニングフェアとして“2010アジアトレードフェア”が１週間の予定で開催される。上海で中華機工有限公司を経営する楊（ヤン）さんもこのフェアに出展するため、鹿児島にやってきた。

「やあ、楊さん、久しぶりです。」

「米森さんも本当にお元気そうでなによりです。」

楊さんが米森さんの経営するメディカルサイボーグ社と３年前から取引を始めたのは、米森さんが10年前から毎年上海で開催される商談会に積極的に参加し、その席上でお互いの共通の友人である久永さんの紹介で知りあったのがきっかけであった。当時、中国では日本ほど高齢化は進展していなかったため、福祉関連機器に対してはほとんどの企業が関心を示さなかったが、米森さんは人口の多さから必ず売れると確信し、粘り強く商談を進めてきた。米森さんの熱意と誠意、そして市場の将来性を感じた楊さんが試作し市場に出したところ、じわじわと売れはじめたことから３年前に正式に取引を始めたものである。

「どうですか、製品の売れ行きは。」

「米森さんのアドバイスのおかげで本当に順調にいってます。近々工場も拡張し、需要の多い日本へも輸出したいと考えています。幸い、志布志港がＦＡＺ（輸入促進地域）に指定され、テクノスーパーライナーも上海から直接寄港しており、中国と鹿児島は今や完全な１日経済圏。コストも安くつきます。今回は、取引先はもちろんのこと、輸送面についてもパートナーを探したいと考えているんです。」

「私の友人が陸・海・空の一体的な運輸を手がける会社を経営しており、とても信頼できる人間です。よかったら、紹介しますよ。」

「米森さんの紹介なら安心です。信頼できるパートナーを見つけることができれば、成功したようなもの。よろしくお願いいたします。」

※ＣＩＱ機能　「空港や港が保有する、出入国、税関、検疫、動物検疫、植物防疫の機能。」

SCENE 2 サザンアイランドクルージング

ソウルのツーリストが企画した“サザンアイランドクルージング10日間の旅”に申込み、釜山から大型観光客船“ケーウンスク号”に乗船して鹿児島へ向かっている金さん夫妻。

大型客船の鹿児島寄港は1973年のオロンセイ号以降増加しているが、かつては市街地近くに停泊できるふ頭がなかったことがネックになっていた。しかし、それも5年前に中央港区の第一人工島に専用バースが整備されたことで解消された。また官民一体となったポートセールス活動により欧米からの入港回数も増えるとともに、近年では所得水準が向上し海外旅行の機会が増えたアジアの人たちが、大型客船で日本近海、東南アジアをクルージングするケースも増えている。

金さん夫妻も結婚30周年記念としてこの旅に参加した。夫妻にとっては初めての海外旅行である。

「今度の旅もあと3日しかないのねえ。沖縄から北上してきたわけだけど、与論の百合ヶ浜は本当に美しかったし、屋久島の杉も神々しいほどの威厳があって素晴らしかったわねえ。」

「本当に変化に富んだ旅だなあ。いよいよ九州本土だ。さっきの山が富士山かな。」

「似てるけど、あれは開聞岳という山よ。ほら、見て！あの噴煙を上げているのが有名な桜島よ！」

「じゃあ、向こうが鹿児島市か。美しい街だなあ。」

トロピカルな奄美の海、世界遺産の屋久島、波静かな錦江湾、雄大な桜島と多くのバリエーションがあり、それだけでも十分、旅に満足している金さん夫妻である。



中央港に着くと、日本建築様式のターミナル、南国を感じさせる甘い花の香り、水を使ったオブジェなど金さん夫妻は異国情緒に感激している。夕方までは自由行動になっているのでさっそく中央港から錦江湾アベニューを通って市街地へ向かうシャトルバスに乗る。もちろん鹿児島は初めてであるが、ターミナルにタッチセンサー方式の情報案内システムが設置されており、モニター画面を見ると英語、中国語、ハングルなど数カ国語で様々な情報を紹介されていた。これで天文館へのアクセスを確認し、乗車したのである。

奥さんの今回の楽しみの一つが“かごしまコレクション”で知られるファッションの購入である。さっそく天文館ファッションストリートへ向かう。店舗内には数カ国語で表示してあり、また店員も片言のハングルで応対してくれる。夫妻はサザンホスタビリティを感じながら、安心してショッピングを楽しんでいる。

数時間、天文館を満喫した金さん夫妻は再び、集合地の中央港へ向かった。今夜の宿泊は霧島の大型クアハウス。大好きな温泉にゆったり入れると思うと心が弾んだ。

SCENE おはよう陳さん 3
シーン3

「おはよう、陳さん。今から大学？いよいよ鹿児島もあと１年だね。卒業したら中国へ帰るの、それとも日本の企業に勤めるの？」

「翔さん、おはようございます。実は今、迷っているんです。郷里の先輩から彼が設立した日本との合弁企業に勤めないかと誘われているんです。僕としては、翔さんから様々な話を聞いているうちに翔さんが勤務されているＣＯＳＭＯＳ社に勤めて、中国にとってはこれからの航空宇宙産業の発展に尽くしたいなという気持ちに傾いてきているんですけど……。」

陳さんは、５年前に県内自治体が出資して設立した鹿児島国際大学（ＫＩＵ）に中国から留学し、現在、宇宙産業学部の４年生である。この大学にはアジア文化学、国際リゾート学、海洋開発学、地球環境学、宇宙産業学などのユニークな学部、大学院があり、日本はもとよりアジア各国から多くの若者が入学している。

飛躍的な経済発展を続けている中国は、近年、以前にも増して開放政策が進み、企業経営も本格的になってきている。このため中国と日本はビジネス、観光両面で結びつきがますます強くなってきており、それをさらに発展させる必要が出てきている。陳さんも中国の将来性を考えた時、日本との交流が最も重要だと考え、日本へ留学してきたのである。

「ところで、何故、陳さんはＫＩＵを選んだの？。」

「そうですね。何と言っても、小さい頃から興味のあった宇宙に関する“宇宙産業学部”があったことですね。それに教授陣はじめスタッフが充実していることもあります。私が現在、指導を受けている先生はアメリカのＮＡＳＡの出身ですが、このように多彩なキャリアを持つ先生が多いことがとても魅力です。その他、県費留学制度や奨学金制度が充実していること、留学生が多く、英語で大部分の授業が受けられることなどですね。」

「そういう情報が中国にも伝わっていたのかい？」

「はい。この大学は開校と同時に衛星を使った通信教育を実施しており、アジア各国で授業を受けることができるし、年１回は鹿児島本校でスクーリングがあります。私の友人がこれを受講しており、彼から話を聞いてぜひ入学したいと思ったのです。」

ＫＩＵには、日本・世界のトップをいく研究者が集まっており、ハイレベルの研究が行われている。このため、鹿児島の街にはアジアをはじめ世界各国から多くの人間が集まり、街全体がグローバルな雰囲気のキャンパスのようになっている。



SCENE ミスターリチャード 4
シーン4

陳さんが鹿児島へ留学して３年余り経つ。最初の１年間は、大学近くにあるインターナショナルレジデンス（留学生会館）に住み、２年目からは皇徳院ニュータウンに家を借り、地域の中で暮らしている。ここには地域サポートセンターを併設したコミュニティログハウスがあり、様々な活動が行われている。陳さんと翔くんは、このログハウスで開かれた地域の国際交流パーティで知り合い、年が近いこともあって意気投合してからのつきあいである。

ところで大学が開校してから、各自治体もアジアから来る多くの留学生を受け入れるための様々な施策に取り組むようになり、留学生も安心して地域のなかで生活できるようになってきている。特に評判が良いのは、日常の生活相談に乗ってくれる経験豊富な外国人相談員が近くにいることである。自分自身が外国人であったり、長い海外生活の経験があるなど留学生の身になって相談にのってあげられるため、とても頼りにされているようだ。

陳さんの地域に住む外国人相談員リチャードさんは、アメリカ出身でＣＯＳＭＯＳ社に勤務するビジネスマンで来日８年になる。翔くんの上司でもある。

今日はリチャードさんからホームパーティに誘われ、自宅に遊びに来た。未来ちゃんの家族、翔くんと渚さん、米森さんや林さんなどの顔も見える。



「陳さん、鹿児島の生活はすっかり慣れました？」

「リチャードさんが鹿児島に来られた頃は、まだ外国人を取り巻く環境も厳しかったようですね。幸い、私の場合は、生活習慣では最初は少し戸惑いましたが、大学にしても今住んでいるこの地域にしても本当に恵まれており、とても満足しています。」

「私が日本へ来た８年前は、まだ外国人相談員といった制度もなく、医療、福祉、教育、住宅など様々な生活相談や法律相談をしたくてもどうすれば良いか、わからず少し苦労しました。今は地域サポートセンターもあり、本当にありがたいですね。」

「それにリチャードさんのような方に相談員をしていただいており、安心して生活できます。」

「さあ、今日は鹿児島の美味しい肉のしゃぶしゃぶよ！」

リチャードさんの奥さんと渚さんが、エプロン姿で大きなさらにのった薩摩黒豚の肉を持ってきた。

「じゃあ、ＫＡＧＯＳＨＩＭＡビールで乾杯！」

2010年の鹿児島は、地元の人も海外から来た人も老若男女も、全ての人々が安心して楽しく生活できるまちになっている。

■実現に向けて

【アジアのビジネス拠点を構築しよう】

鹿児島のアジア地域との経済交流は、従来の農水産物輸入、ＩＣ関連の輸出といったものから商談会、現地視察などによる現地との合弁といった新たな形態も生まれてきている。現在のＮＩＥＳ諸国の経済発展、中国の開放政策等の状況を考えると、将来的には日本国内への製品輸入拠点などを核としたアジアのビジネス拠点を構築することが求められてくると思う。私たちはそのためのＡＰとして、鹿児島港、志布志港、鹿児島空港のＦＡＺの指定、テクノスーパーライナーの誘致などによる国際港湾・空港としての位置づけの確立、ＣＩＱの充実など空港機能の強化、臨空型産業の集積等によるエアカーゴ基地化を図るとともに、港湾・空港と国内流通をつなぐ陸上交通体系の整備、国際見本展示場の建設等を進めることでアジアとの新たなビジネスチャンスの創造を図りたいと考える。

【アジアのアーバンリゾートを構築しよう】

近年、ＮＩＥＳ諸国の海外渡航者数は増加の一途を辿る一方、近い将来、中国からも多くの観光客が来日すると予想される。また今年開港の関西新空港には、国際ハブ空港をめざしているが、21世紀初めにはその機能もオーバーフローするとも言われている。鹿児島が「南のゲートウェイ」を現実のものとするには、国内に多くの航空路線を持つメリットを活かし、アジアの都市観光志向に対応できるアーバンリゾートを構築することが求められてくる。私たちはそのためのＡＰとして、日本の乗入れを希望する航空会社への誘致運動による国際航空路線の開設（特に中国臨海部都市）、ポートセールス活動の積極的展開、鹿児島らしい外観を持つ施設の整備（特に空港、港）、外国人も楽しめる大型クアハウスの整備、離島のハード整備、ＰＲ等を積極的に展開すべきであると考える。

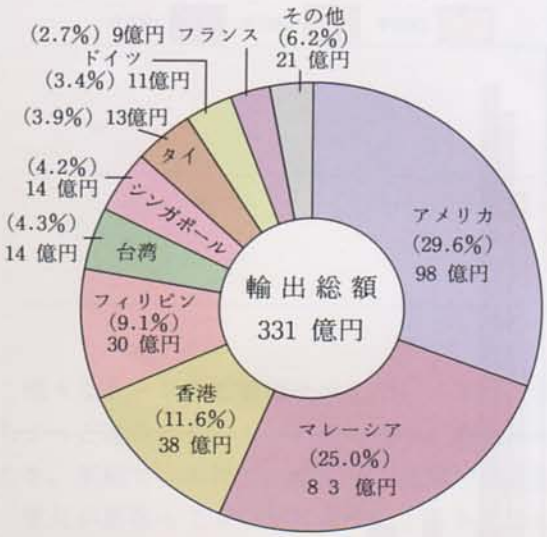
【アジアに開かれたキャンパス都市を構築しよう】

鹿児島とアジアとの直接的国際交流を進めていくうえで、魅力ある国際学園都市としての機能の充実とイメージの醸成を図っていくことも重要な選択肢の一つであると考える。私たちはそのためのＡＰとして、県と県内市町村出資による大学設置を提案したい。鹿児島の産業界とアジアとの経済交流の結びつきを支援する学部、例えば国際リゾート学部、海洋開発学部、宇宙産業学部など鹿児島にふさわしい学部を設ける。これにより鹿児島留学がより実質的なものになるとともに、鹿児島からアジアへ進出した企業に留学生が就職する可能性も増えると考える。またアジア文化学部、アジア研究所などを設け、相互理解を行うための文化等の基礎研究を行う。その他、県費留学制度の充実、県内企業出資の基金による鹿児島版フルブライト制度の導入などを優秀な留学生の来鹿の呼び水としたい。

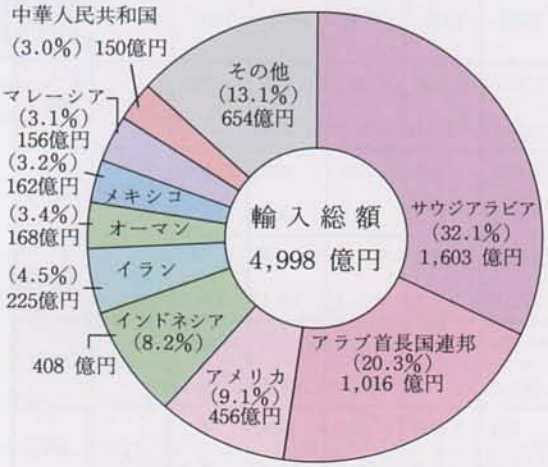
【アジアにとって包容力のある都市を構築しよう】

国際化時代において地方の力量が試されるのは、在留外国人との接し方であり、今後は外国人も住民であるという視点で人と人が心を通い合わすことができるような環境づくりを行っていく必要がある。例えば、来日後しばらくはウォーミングアップ期間として留学生会館等で暮らし、その後は民間アパートなどで地域に溶け込んで行けるような住環境の整備を行う。私たちはそのためのＡＰとして、留学生向け住宅提供者への自治体独自の助成措置、不動産関係者への外国人受入セミナーの実施など違和感を感じさせないような雰囲気づくり、様々な相談にのってくれる留学生相談員・地域相談窓口の設置、日本語教室の開設などを積極的に展開することによってふだん着感覚の国際性を育て、留学生にとって日本の中で最も行きたい快適なまちをめざしたい。

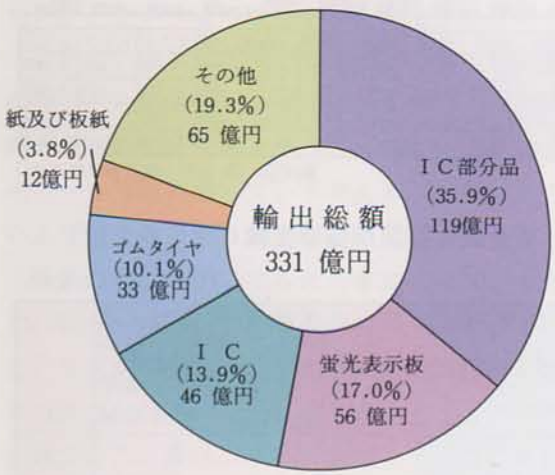
①－1　県内貿易港からの主な輸出国（1992年）



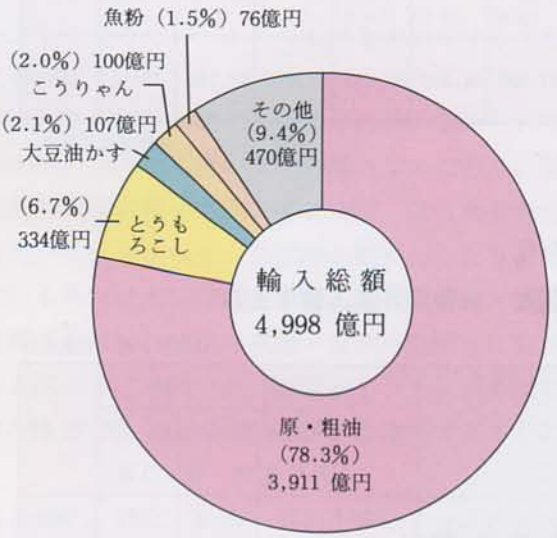
①－2　県内貿易港への主な輸入国（1992年）



②－1　県内貿易港からの主な輸出品目（1992年）



②－2　県内貿易港への主な輸入品目（1992年）



出所：鹿児島税関支署管内貿易概況

③　ＦＡＺ（フォーリン・アクセス・ゾーン：輸入促進地域）について

ＦＡＺの概要	ＦＡＺ地域の要件	ＦＡＺ整備に関する支援措置
・輸入円滑化のため、港湾・空港及びその周辺地域においてＦＡＺを設定し輸入に関する施設、事業、活動を集積させる。 ・ＦＡＺの中核施設として、第３セクター等が中心となって次のような輸入促進基盤施設を整備する。 ①輸入品物流支援施設 保管・荷捌き施設等 ②輸入ビジネス支援施設 輸入品展示施設 輸入品情報センター デザイン・イン・センター等 ③輸入品加工・卸業務施設	・港湾、空港及びその周辺地域であること。 ・輸入貨物が相当程度流通することが見込まれること。 ・ＦＡＺ整備により相当程度の輸入促進効果が見込まれること。	・ＦＡＺ整備を行う第３セクター等への支援。 ・輸入貨物取扱事業者に対する支援。 ・ジェトロによるＦＡＺの支援。 ・総合保税地域制度による保税手続きの簡素化。
	ＦＡＺ整備の指針	鹿児島県ＦＡＺ構想の概要(案)
	・通産、運輸、農林及び自治大臣は、ＦＡＺ整備指針を作成。	・第１期構想地域（2000年目標） （鹿児島港） 鹿児島トレードセンター （鹿児島空港） 流通業務団地 エアポートサイド産業拠点 エアカーゴターミナル ・第２期構想地域（2005年目標） （志布志港）
	ＦＡＺ設定の手続	
	・都道府県が地域輸入促進計画（ＦＡＺ整備計画）を策定。 ・国による都道府県地域輸入促進計画の承認。 ・国は承認された各種施設整備等に対し各種支援を実施。	

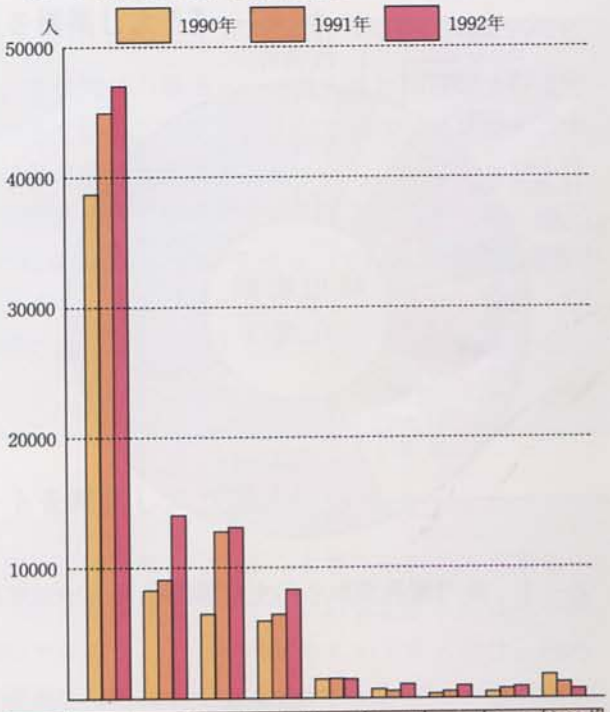
観　光

①　発地別外国人観光客数

年 / 地域	観光客数（人）					伸び率（%）	
	1988	1989	1990	1991	1992	4／3	4／63
北米	5,051 (12.2)	5,656 (10.4)	6,277 (9.3)	6,942 (8.4)	9,280 (10.1)	133.7	183.7
中南米	677 (1.6)	799 (1.5)	229 (0.3)	324 (0.4)	309 (0.3)	95.4	45.6
ヨーロッパ	4,686 (11.3)	3,969 (7.3)	3,574 (5.3)	5,068 (6.1)	5,233 (5.7)	103.3	111.7
アジア	29,886 (72.2)	41,869 (77.0)	56,475 (84.0)	69,372 (84.1)	76,908 (83.4)	110.9	257.3
オセアニア	764 (1.8)	2,098 (3.9)	676 (1.0)	552 (0.7)	429 (0.5)	77.7	56.2
アフリカ	334 (0.8)	8 (0.0)	11 (0.0)	217 (0.3)	6 (0.0)	2.8	1.8
計	41,398	54,399	67,242	82,475	92,165	111.7	222.6

（注）（　）は構成比である。

②　国籍別外国人観光客数



	香港	台湾	韓国	米国	英国	中国	カナダ	ドイツ	シンガポール
1990年	38,699	8,275	6,450	5,937	1,452	713	340	492	1,807
1991年	44,942	9,082	12,775	6,428	1,511	575	514	733	1,223
1992年	47,021	14,028	13,109	8,313	1,451	1,080	967	902	722
4/3%	104.6	154.5	102.6	129.3	96.0	187.8	188.1	123.1	59.0

観光①，② 出所：鹿児島県観光統計

留学生

①　国費・私費別外国人留学生数

（1993年5月1日現在）

区分	国費	私費			合計
		外国政府派遣	鹿児島県費	私費（自費）	
鹿児島大学	95 (25)	21 (2)	3 (2)	41 (14)	160 (43)
鹿屋体育大学				4 (1)	4 (1)
鹿児島経済大学				1	1
鹿児島県立短期大学				1	1
鹿児島工業高等専門学校	4	1			5
合計	99 (25)	22 (2)	3 (2)	47 (15)	171 (44)

②　出身国・機関別留学生数（上位6ヵ国）

（1993年5月1日現在）

区域	国籍	鹿児島大学	鹿屋体育大学	鹿児島県立短期大学	鹿児島工業高等専門学校	合計
アジア	インドネシア	21 (1)				21 (1)
	大韓民国	10 (3)				10 (3)
	中華人民共和国	49 (14)	4 (1)	1	1	55 (15)
	バングラデシュ	19 (5)				19 (5)
	フィリピン	14 (7)			3	17 (7)
	マレーシア	11 (2)			1	12 (2)

※（　）内は女子を内数で示す。

留学生①，② 出所：さくらじま（鹿児島地域留学生交流推進会議）

EPILOGUE
エピローグ

様々なシーンをご覧頂きました。「本当に2010年にはこうなったらいいな。」「わたしが想像するイメージはちょっと違うけど。」…いろいろなご意見があるかと思います。その一人ひとりのこのまちの将来についての考えを、家庭で、学校で、会社で、地域で発言し合うことから始めてみませんか。

意見が異なってぶつかり合うこともあるでしょう。利害が反して対立することもあるでしょう。しかし、「自分たちのまちをよくしたい」という共通の認識さえあれば、前向きに議論する中で一致点が見い出せ、力を合わせて行動していくことは何なのかが見えてくるのではないでしょうか。

たとえば、「美しいまちでありたい。」・「人に優しいまちでありたい。」・「ものを大切にするまちでありたい。」というようなことは、誰もが共感できる目標だと考えます。

しかし、現実はどうでしょう。平気で空き缶やタバコやガムなどを道に捨てていませんか。定められた日以外に分別しないでゴミを出していませんか。高齢者や身障者あるいは土地に慣れない外国人をいたわり、関わる気持ちを忘れていませんか。自分の物は大切にしても公共の物を粗末に扱ってはいませんか。限りある食料やエネルギーを無駄に使っていませんか。…私たちの多くは、気付いていながらも、自己中心的になったり、見てみないふりをするという日常に、いつのまにか慣れてしまっているのではないでしょうか。

将来の理想を描いてみたときに、時間とお金だけでは実現できない、住民の意識・役割の重要性に気が付きます。私たちは、このまちを舞台に一生を送る一人ひとりの人間としてまちを作り運営することに積極的に参画していく自治意識に目覚めた本当の「市民」にならなければなりません。そして、心掛けひとつで、すぐにでもできることから実行していくことが大切なのです。

さて、ここ数年、「地方分権」・「規制緩和」が叫ばれるなど、自立・平等・公正を目指すシステムへの変革を求める声が高まってきています。生き生きした活力のある社会を築いていくためには確かに進めていかなくてはならない目標でしょう。本書の中で描いたシーンの実現もこの変革が前提となるものが数多くあります。

しかし、長い間、国をはじめとする「公」に任せた国づくり、まちづくりをどちらかというと受動的に受け入れ、利便性や、物質的な豊かさを享受している私たち。規制による一定の制約があることによって今のような形で存在できているかなりの数の企業。これらも現実の一面なのです。理想を実現する前に立ちはだかる様々な困難、自分の身にもふりかかるであろう痛みを考えてみたとき、葛藤や躊躇が頭をよぎります。かなりの混乱も予想されます。

そういう中で、人間が本来持っている知恵や勇気がそれらを乗り越える大きな原動力となるでしょう。自治意識に目覚めた市民は経済社会の変革に対しても意欲を持って前向きに取り組むことができると信じたいと思います。

そして、そういう市民の支持を得た意欲ある政治家、首長、行政と手を携えて、私たちのまち鹿児島をさらに自立した個性的で魅力ある都市として次世代の人々に継承していくことが私たちの使命なのではないでしょうか。

まちは、自動的に与えられるものではなく、自然や先人からの遺産を受けて、今を生きる私たちが守り育て築いていくものなのです。

さあ、みんなで始めましょう。夢の実現に向けたまちづくりを……。

参考文献リスト

■「鹿児島県総合基本計画　第２期実施計画」		鹿児島県
■「鹿児島県統計年鑑（平成４年）」		鹿児島県
■「鹿児島広域都市圏整備の基本方向」		鹿児島県
■「21世紀に向けてＴＳＬで拓く南の拠点づくり」		鹿児島県
■「かごしまの国際交流」		鹿児島県
■「2010年への選択」		経済企画庁総合計画局
■「県民の学習状況と学習希望に関する調査報告書」		1990年鹿児島県教育委員会
■「21世紀の知的社会への改革に向けて」		電気通信協議会
■「宇宙－新世紀へ－」		鹿児島県宇宙開発促進協議会
■「鹿児島県農業の動向」		九州農政局鹿児島統計情報事務所
■「地域における高齢者福祉サービス供給体制の方向性」		鹿児島地域経済研究所
■「長寿社会対策の動向と展望」	総務庁長官官房老人対策室　編	大蔵省印刷局
■「環境保全型農業と世界の経済」	農林中金総合研究所　編	農文協
■「未来へのヒント」	船井　幸雄　著	サンマーク出版
■「地球を救う大変革」	比嘉　照夫　著	サンマーク出版
■「現代都市読本」	田村　　明　著	東洋経済新報社
■「地方都市・21世紀への構想」	酒田　　哲　著	日本放送出版協会
■「Ｎｅｗｔｏｎ　1990～1994年発刊分(別冊を含む)」		教育社
■「イミダス　1993」		集英社

◎本書を作成するにあたり、行政をはじめ多くの方々に、勉強会・資料提供等のご協力を賜りました。
心より御礼申し上げます。

STAFF

■ 21世紀ビジョン会議（起草）

議　長	津曲　貞利	理事長
委　員	中園　雅治	直前理事長
委　員	山元　政博	副理事長
委　員	中尾　成昭	副理事長
委　員	横山　喬	副理事長
委　員	中島賢二郎	40周年特別室長
委　員	小篠　正視	総務室長
委　員	深野木　信	会員室長
委　員	小島　貴志	地球市民室長
委　員	山下　明夫	市民交流室長
委　員	森　達哉	政策室長
委　員	貴島　和文	ブロック支援室長
委　員	永田　致唯	専務理事
委　員	岩切　英彦	監　事
委　員	馬場甚史朗	監　事
委　員	吉永　剛	監　事
委　員	新福大一郎	かごしまグランドデザイン委員会委員長
委　員	久保　久昭	地域ネットワーク委員会委員長
委　員	内村　二郎	21世紀ビジョン委員会委員長
委　員	田原　武志	21世紀ビジョン委員会副委員長
委　員	久永　修平	21世紀ビジョン委員会副委員長

■ 21世紀ビジョン委員会（制作・編集・21世紀ビジョン会議事務局）

委員長	内村　二郎
副委員長	田原　武志
副委員長	久永　修平
運営幹事	大西　儀朋
会計幹事	米森　秀徳
委　員	天野　完二
委　員	大黒　直哉
委　員	加藤　伸一
委　員	久保　英司
委　員	漸井秀一郎
委　員	西川　侑良
委　員	初田　健
委　員	三木　武幸

1994年9月2日
社団法人　鹿児島青年会議所
〒890 鹿児島市新照院町41－1
城山観光ホテル内
☎（0992）22－1342
発行責任者　理事長　津曲　貞利
編集責任者　副理事長　中尾　成昭
政策室長　森　達哉
21世紀ビジョン委員会
印　刷　㈲天野印刷所
協　力　㈲チームワインドアップ



DREAMS COME TRUE····